

# 徳山高専だより

特集 インターネットの教育利用への誘い  
小特集 第36回全国高等体育大会



## 目次

扉のページ	巻頭言	1
特集	インターネットの教育利用への誘い	2
小特集	第36回全国高専体育大会	15
NHK ロボコン2001	結果速報	23
	新入生合宿研修	25
	情報電子工学科3年合宿研修	27
学習のしるべ	英検2級に合格して	28
	ソフトウェア開発技術者に合格して	29
クラブのページ	学校に藍が来た日	30
寮生会のページ	DM Revolution	31
卒業生のページ	又私は如何にして心配するのを止めて	
	レースを・愛する・ようになったか	32
日本の伝統文化	茶道	33
暮らしのサイエンス	竹とんぼのデザイン	35
街角ウォッチング	フランス旅行記	37
留学生・編入生		
の紹介		41
新任教職員の紹介		43
私の研究		46
Topics		47
編集後記		49
アングル		50

表紙は全国高専体育大会の陸上競技男子 1500mの写真です。選手は機械電気工学科藤井隆幸君です。記録4分04秒08で第3位に入賞しました。(撮影：福田 靖 氏) 扉のページの写真は徳山高専正門の花壇の写真です。(撮影：重安 邦之 氏)



春風以接人

秋霜以慎自

佐藤一斉（江戸時代の儒学者）

春風を以って人に接し、秋霜を以って自らを慎む

春風のような和らぎをもって

人に接し、自分には秋の霜のように

厳しくすべきであるという意

特集

# インターネットの教育利用への誘い

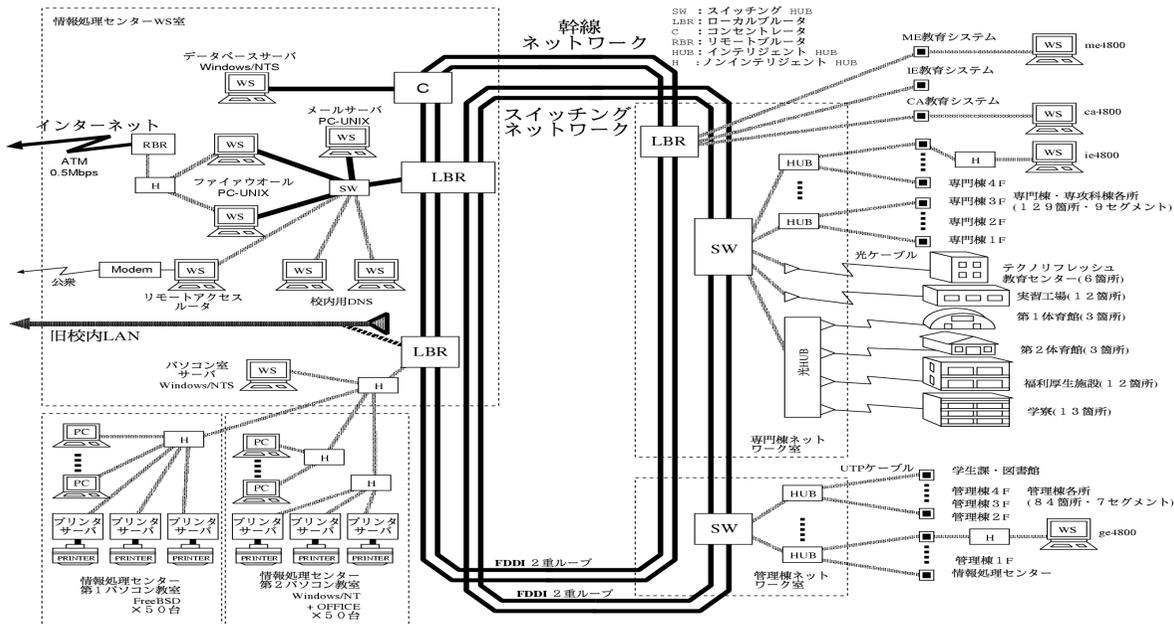
1996年、学内LANシステムが整備され教室や研究室のパソコンから世界への窓が開く現在、インターネット技術が教育研究の為にどう活かされているか教師と学生の両方の立場から眺めてみたいと思い、特集を組みました。

現在の学内LANシステムの構成を図に示します。情報処理センタと各学科のパソコン室のサーバや端末を収容する幹線ネットワークと教室棟、専門棟の各研究室、図書館、学寮などのサーバや端末を収容したスイッチングネットワークがあり、共にFDDIのループによりリンクされています。さらに、情報処理センタのサーバにはメールサーバ、ファイアウォールなどがあります。

パソコンを利用した授業も盛んです。情報処理センタや各科のパソコン室を利用する授業科目数

は3学科を合わせて30を超えます。この中にはプログラミング演習、数値解析、統計学、設計、回路シミュレーションなど、そして創造演習でもWebを活用した調査目的に利用されています。また、授業担当者による学習手引のWebによる公開、Webの掲示板による質問や応答、電子メールによるレポートの提出など様々な面で教育手段の自由度が広がって来ています。

今回は冒頭で述べましたように、教師がこれらのインターネット技術を如何に教育活動に利用しているかご紹介したいと思います。また、学生がこれらの技術を各々の学習に有効であると感じているか、そうでない場合の問題点は何かについて、アンケート調査を行い検討してみたいと思います。



徳山高専キャンパス情報ネットワーク構成図

## ホームページの紹介

### 機械電気工学科のホームページ

機械電気工学科 西村 太志

機械電気工学科では創造演習、創造製作の成果を平成8年からホームページ上で公開しています。当初は学内に限定しての公開でしたが、創造製作で製作したオリジナリティあふれたロボットを学外に公開するため、昨年（平成12年）から右のような機械電気工学科のホームページを学外に公開しています。

ページの構成は学科紹介、創造演習のページ、創造製作のページ、研究室紹介、掲示板およびリンク集となっています。ページは最近のウェブページ作成ソフトを使用すれば簡単にできるのかもしれませんが、いまだにエディタでHTMLタグを書いています。各ページは800 x 600 pixelsの画面でも横スクロールなしで見ることができるものとし、シンプルでわかりやすいことを目的に作っています。また、コンピュータやブラウザの違いにより画面が乱れないように努力はしていますが、完全なものとはなっていません。

各ページの紹介をしますと、創造製作のページは学生がつくったロボットの紹介、競技風景および競技結果を学外に公開しています。一方、創造演習のページは著作権の問題もあるため学内限定としており、学生が授業で作成したページへのリンクとなっています。各研究室のページは機械電気工学科の先生方が作られています。毎日更新されているページや作ったきりほとんど更新されていないページ（私のページも含む）などさまざまです。また、掲示板の他に学科の予定表もつくっていますが、いずれも開店休業中となっており、もっと有効利用できないものかと模索中です。



<http://mechelec.tu.tokuyama.ac.jp/> (学内用)

<http://www.tokuyama.ac.jp/mechelec/> (学外用)

私個人としては1年生と4年生でコンピュータを使用する授業用にページを作ったのですが、ページを表示させると自分で操作するためのスペースがなくなってしまうため、結局、紙に印刷して見るという結果になってしまいました。今後はプロジェクトを使用するなど授業方法を変えなければいけないと考えています。

学科のホームページを立ち上げたころは頻繁に更新をしていたのですが、現在はよくて一月に一回、間があくと二、三ヶ月更新していません。個人のホームページでもそうですが、毎日更新されるページは定期的に見に行きます（毎日更新するというのが一番難しいのですが）。学科のページも同じだと思います。そこで、せめて週に一回は更新し、“その週の行事や授業に関する新しい情報が手に入る”、そんなページにして学生の皆さんに有用な情報が提供できるようにしたいと思います。

## ホームページの紹介

### 自動更新機能が欲しい今日この頃

情報電子工学科 山田健仁

平成 11 年度からシラバスの電子化の試みが、情報電子工学科で始まりました。既に、以前から重村教官や杉村教官など若手教官の一部で、講義や公開講座の内容のウェブページ上への公開が始められていました。私個人は、初期のウェブページ作成では HTML 言語によりページを記述する必要があったため、その作成に躊躇していました。しかし、最近ではウェブページの作成ツールが充実し、ワードプロセッサ感覚でウェブページの作成が可能になってきたことから、講義や学生への連絡にウェブページを利用することを始めることにしました。特に平成 12、13 年度は本科 4、5 年の担任を担当することから、就職・進学に関する情報をなるべく全ての学生に均等に行き渡らせることを目標にクラスホームルームのページも立ち上げました。

私のウェブページの主な構成は、1) 講義に関する事柄、2) 資格に関する事柄、3) 実力試験に関する事柄、4) クラス運営に関する事柄、から成っています。当初は、講義概要や講義の補足をウェブページに掲載することを第一目標としていましたが、学生がウェブページを印刷してノート代わりに使用するなどの傾向が現れたため、現在は、演習課題の掲示や講義に関連した基礎事項の掲示を行っています。このような講義ページの作成は、学生の学習過程を見直すとともに自分自身の知識を再点検する良い機会となっています。

現在、クラスホームルームのページの目玉は、就職・進学情報です。ここには、求人票を元にした求人状況だけでなく、これまでの卒業生の就職・進

学先、求人情報リンク、などを掲示し、就職・進学の便宜を図っています。但し、このページはクラスに密着した情報も多いので、公開範囲を限定しています。

資格取得や実力試験に関するページでは、取得者を称える意味と学校の宣伝の意味合いから、資格取得者を公開しています。これは、大学などの掲示板にもありますが、名前の公表だけにとどめることでプライバシーを保護しているようで、このページも同様になっています。実力試験のページには、過去の実力試験問題や試験結果を掲載しています。

この他、研究や実験、雑記などのページがありますが、更新に手が回らない状況です。ウェブページは新鮮さが命ですが、命を保つのは難しいというのが実感です。



<http://js585.tu.tokuyama.ac.jp/~tyamada/>

(学内用)

<http://www.tokuyama.ac.jp/js585/~tyamada/>

(学外用)

## ホームページの紹介 ウェブページについて

情報電子工学科 杉村敦彦

私がウェブページを最初に構築したときに考えたのは、「世間に公開するほどの内容を自分が持っているのか?」ということでした。しかし、多少なりとも他の人に役立つ情報があるのではないかと考え、FreeBSDのインストールメモや、水泳部、ロボコンなどのお知らせのページを作成しました。インストールメモについては、外部の方から質問がメールで届くなどの反応がありました。水泳部のページは各年度の予定しかない簡単なものです。しかし、卒業生の方が自前で掲示板を作成してくださったので、その掲示板へのリンクが特徴を出していると思います。ロボコンのページはいわゆるNHKロボコンだけではなく、全学ロボコンについても、可能なかぎりの情報を掲載しています。このロボコンのページは、これからもできる限り更新していこうと考えています。しかし、現在私がロボコンに直接関わっていないためどこまでできるかは疑問です。

また、校内ネットワークからしか見えないウェブサーバを教官室にFreeBSDとApacheを用いて立ち上げています。そこには、学内の資料としては公開したいが、学外へ公開するには疑問のある内容(名簿や、顔のはっきり写っている画像、学内資料等)を置くことにしています。私のページに校内限定が多いのはそのためです。

ウェブページを作成する際に、デジタルカメラが非常に役立っています。デジタルカメラで撮影した画像をどんどんウェブページに掲載するため、画像だらけの写真集のようなページもできています。しかし、デジタルカメラで撮影した画像は、そのまま

ページに掲載するには、ファイルの大きさや、画像サイズ、明るさやコントラストの面で不適當です。そこで、Gimpというフリーのツールを用いて、加工した上で掲載しています。(この作業が結構大変です。)もし、私のページにある画像で、ほしい画像があれば連絡してください。加工する前の生データをお渡しすることも可能です。(ただし、写っている本人に限ります。)また、ほとんどの画像は、校内限定にしています。なお、このGimpというツールはウェブページ用の機能もあり、タイトル文字やボタンの作成に非常に重宝しています。

私がページを作成するときは、FreeBSD上でMuleというテキストエディタを用いてHTMLをガリガリ書いています。必要最小限のことを記述したHTMLファイルの一つを持っていて、それに内容を追加してだけです。文法チェックには、jweblintというツールを使用しています。これからも少しづつ内容を充実していくつもりですので、ご意見などがありましたら教えてください。(最近、寮の行事予定を追加したのですが、皆さんご存知でしょうか?)

<http://ccsv1.tu.tokuyama.ac.jp/~sugimura/>

## ホームページの紹介

### ホームページ回顧録

情報電子工学科 百田正広

私がホームページ (HP) 作成を始めたのは、雑誌で HP 製作が、紹介された平成 7 年頃からです。当時、徳山高専の公式 HP は存在せず、若手教官や本校学生が、現在の裏 HP (未公認?) の「インターネットな人達」(消滅しました) というページに、各自の HP を公開していました。専攻科 1 期生の学生に影響され、新しいものが好きな私も手を染めてしまいました。最初の頃は、HTML 言語により HP を作成する必要があったため、非常に苦労しました。その後、HP 作成ソフトを購入し、全面的に書き直しました。時間を見つけては更新を心がけていますが、タイムリーな更新ができていません。

気後れしますが、ここに、裏 HP にある私の HP の紹介をさせていただきます。右の写真を見ていただくと解るかと思いますが、1) 自己紹介、2) 担当講義と学習の手引き、3) 研究と業績、4) 資料、などから構成されています。全面的に書き換えた目的は、2) の担当教科の学習の手引き (校内のみ見ることが出来ます) を充実することでした。学生の予習や復習のために、講義について書いてありますが、年度により、講義時期がずれていたり、講義内容も変化したりしています。残念なのは、学生が HP を印刷してノート代わりに使用することです。講義でお話する全てを、HP に載せることはできませんし、逆に講義では話せなかった事柄などを乗せていたりしますので、うまく利用していただければと思います。この部分には、他に実験レポートを作成する際に参考になる資料も載せています。特に、「レポートを書く前に」の項目からリンクさせていただいてい

る大瀧先生の HP は、工学部の学生がレポートを書く際に参考になると思います。

3) では、私が、現在行っている研究論文を掲載しております。一般人には、興味がない部分ですが、時には、海外からアクセスされ、論文の別刷りを要求されたりします。

4) には、研究室の紹介がされています。更新をお願いしていた専攻科の学生が卒業してしまい、更新に手が回らない状態です。

その他、テニス部の顧問をしていますので、「クラブのホームページ」からたどれる、テニス部 HP へのリンクも張っています。テニス部 HP の更新も私が行っています。テニス部の学生で記事を載せて欲しい方がいましたら、連絡をいただければ、可能な限り載せていきたいと思っています。



<http://js585.tu.tokuyama.ac.jp/~momota/>

(学内用)

<http://www.tokuyama.ac.jp/js585/~momota/>

(学外用)

## ホームページの紹介

### この様なページを目指しています

土木建築工学科 桑嶋啓治

土木建築工学科では、下記のアドレスでホームページを開設しています。

<http://tcssl.tu.tokuyama.ac.jp/homepage/>

CA-HP/ca.shtml (学内用)

<http://www.tokuyama.ac.jp/tcssl/homepage/>

CA-HP/ca.shtml (学外用)



内容は、学科紹介や、様々な行事を紹介していますが、工事中のページが多く、非常に申し訳なく思います。現在、胸を張って紹介できる内容ではありませんが、これから近い将来、この様なページにしたいという願望を込めて紹介したいと思います。

このトップページは、様々なコンテンツが、最初隠されており、マウスを画像の所に移動させるとコンテンツが現れ、目的のページにジャンプできます。これは佐々木先生のアイデアであり、画面のデザインを担当していただきました。

さて、その内容ですが、主に学科紹介と様々な行事が紹介されています。まず、三年生の時に行われる集中測量実習の作品を紹介します。これは、三泊四日で、山や海に泊まりがけで測量を行う合宿です。

実習では、宿泊地周辺の測量を行い、建物や道路を精度良く測量し、最終的には図面に仕上げます。毎年、立派な作品が出来上がり、これまで高専祭や校内見学会で紹介してきましたが、数年前よりホームページでも紹介しています。卒業生が、作品を見直すことにより、その時の様々な思い出もよみがえることでしょう魅えることでしょう。これからも作品の内容に負けないページ作りを目指します。

現在、考えているのは、花壇のページです。昨年、高専祭の学科企画で、学生が協力して、学校の校門に花壇を設置しました。毎日通学、通勤に目にされていると思いますが、卒業して徳山から遠く離れても、花壇の様子を楽しめるようにし、四季折々の花を、皆様に広く紹介したいと思います。

また、先生方の研究内容やその成果を紹介するとともに、公開講座や、オープンカレッジ、土木の日（十一月十八は土木の日です）に行われる行事も積極的に紹介したいと思います。その他、学内に範囲を限定して、就職、進学等の進路の情報も公開したいと思います。少しでも学生の意識を高めるため、そして、進路の決定に際して少しでも手助けになるようにしていこうと思います。

また、土木建築工学科内だけで発行している C&A というニュースレターがあります。これまでに 81 回発行されました。それらをデジタル化して永久に残しておきたいと思います。

この他にも、学科の行事として、四年生の時に研修旅行に出かけたり、五年生の時には長野山に出かけたりと数多く挙げられますが、夢は膨らむばかりで、忙しさにかまけてあまり進んでいない現状を反省しつつ、少しずつでも前進し、在校生、卒業生、そして多くの方々に楽しんでもらえるページ作りを目指したいと思います。

## 技術基礎研究室のホームページ

### 創造教育の成果の紹介が中心です

機械電気工学科 門脇重道

本校が高専教育のこれからのあり方として重要と思われる創造教育に取り組み始めて7年近くになります。その創造教育の結果、学生諸君は様々な成果をあげてきていますが、そのことはあまり知られていませんし、創造教育への理解もあまり進んでいるとはいえません。そのため創造教育の成果をもっと広く知ってもらいたいと考え、ホームページの作成を考えるようになりました。

文法は良く分かりませんが、下手でも良いから自分でやるしかないと考え、機械電気工学科の若手の先生方に教えていただきながら、スタートした次第です。何とか創造教育の成果や授業のことなどをかろうじて掲載しているのが現状で、作りはいたってシンプルです。

内容的な特徴としては、まず先に述べたように創造教育の成果を載せていることです。学生諸君が創造活動に取り組み、成果を上げた場合には、ともかく紹介するようにしています。高専という学校制度は、学生がいかん特徴ある成果を示せるかが最も大事なことだと考えていますから、それはまず紹介する必要がありますと考えています。もちろん創造教育の教育方法や内容の紹介も不十分ですが行っています。

本校は平成9、10年度に創造教育推進校の指定を受けたことがあり、その関係で成果を紹介することも求められていますから、その関係で「創造教育のホームページ」も別に作っています。

<http://www.tokuyama.ac.jp/mechelec/souzou/>

次の特徴としては授業でのホームページの利用度が高いということでしょう。創造教育の一環で取り

組んでいる創造演習という科目では、学生のテーマや作業進行状況のチェック結果が載せられています。またテーマ決定までの担当者としての私と学生のやり取りは創造演習ページ内の掲示板機能を使ってやり取りしています。これによって従来よりも早く学生と担当教官とのやり取りができるようになりました。(授業関係は学内限定です)

インターネットは情報を収集する上でもはや不可欠な道具であり、かつ各人が自分の考えを発信することのできる手段です。これからは自分がホームページを介して社会に働きかけることもできる時代になるわけですが、それだけ個性を問われる時代になるとも考えられます。情報の波に流されず、その中で自分の考えや発想を大事にした主体的な生き方ができるように取り組んで欲しいと思います。

インターネットを駆使して自分の主張や新たなビジネスを積極的に打ち出す学生の登場を期待します。インターネットの時代には創造的な生き方こそがふさわしいということを理解して頑張ってくださいと思います。



<http://www.tokuyama.ac.jp/mechelec/kadowaki/>

## ホームページの紹介 作成より継続が大変

情報電子工学科 重村哲至

平成6年度から、私の受け持ち科目で宿題の提出に電子メールを使用するようになりました。目的は、日常的に電子メールを使用する習慣を身につけさせることと、私が宿題レポートの管理を楽しもうとしたことでした。

ところが始めてみると、メールソフトの操作ミスが原因と思われる「メールが届かない現象」が度々発生しました。そこで平成7年度に、宿題メールの受付が完了したことと、提出したメールの内容を学生がホームページで確認できる提出状況確認システムを作成し、以来、今日まで使用しています。

このシステムの使い方は次のようになります。(1)「表題」に宿題メールであることを表す特別な目印を付けて重村宛にメールを発信します。(2)目印付きメールは、メールサーバで自動的に重村の宿題データベースに登録されます。(3)学生が「宿題提出状況確認ページ」(右上図)をアクセスするとユーザ名とパスワードから誰であるか確認した後、該当学生の提出状況を調べ、ブラウザに表示します。

このページを作成したことにより、宿題の提出に関する上記のようなトラブルは無くなりました。続いて、このページの入り口となる科目のホームページ(右下図)を立ち上げました。当初は、シラバスを丸写しした年間予定と、確認システムの使用方法を説明したページでしたが、平成11年度に情報電子工学科で始まったシラバス電子化にあわせ「学習の手引き」を追加しました。科目により担当者により、やり方は色々ですが、私の場合は、当時受け持っていた2科目に付いて、1年間がかりで講義ノート

ホームページに書き直しました。この作業は科目の内容に対する知識の掘り下げ等、自分の勉強にも随分役立ちました。また、適当な教科書の無い科目では、これを印刷し教科書の代わりに使用できるようになり、その点でも役に立っています。

しかし、平成12年以降に新しく受け持った3科目(専攻科含む)中2科目に付いては、未だ、「学習の手引き」を作成していません。この作業は時間のかかる大変な作業なので、忙しさを言い訳に先送りしています。また、宿題提出状況確認ページに付いても、PRが不足しているのか、学生がページの存在を忘れてしまっていることがあります。

せっかく作ったページが、いつまでも役に立つためには、追加、更新、PRどれも継続的に行う必要があります。始めるのも大変ですが、それ以上に継続していくことが大変だと実感しています。

### 宿題提出状況確認ページ

重村 哲至 さんの「データ構造 2001」の宿題提出状況

No.	課題名	説明	提出期限	提出日
1	メールを送る	宿題提出の練習	04-26-2001	04-13-2001
2	セグ、カ氏対応表		05-10-2001	04-13-2001
3	文字コード表		05-17-2001	04-13-2001
4	文字列の左右を逆に	文字列の意味がよく分かったか確認	05-31-2001	04-13-2001
5	文字列の左右を逆に	関数利用版	06-07-2001	04-13-2001
6	ファイルのコピー	一般的なストリーム	06-28-2001	04-13-2001
7	文字列ソート	テキストと文字列ライブラリ	07-05-2001	04-13-2001
8	テキストエディタ		09-06-2001	04-13-2001
9	文字列コピーポイント版	ポイントの練習	09-13-2001	未提出
10	テキストを逆に出力	ポイント配列の例題	09-20-2001	未提出
11	文字列ソート	ポイント配列の応用	09-27-2001	未提出

[徳山高専のホームへ](#) [データ構造 2001 のホームへ](#)

### データ構造とアルゴリズムのホームページ

情報電子工学科3年、必修  
担当: 重村哲至



<p><b>学習の手引</b></p> <p>講義の目的および概要 体系的なデータ構造と アルゴリズムを学ぶ プログラミングに必要 な基本的技法を身に付 ける。また、UNIX 上で のC言語プログラミングに 付いても学ぶ。</p>	<p>校内限定!!</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前期</li> <li>・ 後期</li> </ul> <p><b>宿題関連</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 提出方法</li> <li>・ 各自の提出状況確認 (校内のみ、要パスワード)</li> </ul>	<p><b>その他</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 情報処理センター利用の手引</li> <li>・ 教員等利用の手引</li> <li>・ 1996年度</li> <li>・ 1997年度</li> <li>・ 1998年度</li> <li>・ 1999年度</li> <li>・ 2000年度</li> <li>・ スタッフのページ</li> </ul>
---	---	---

[徳山高専のホームへ](#) [情報電子のホームへ](#) [重村哲至ホームへ](#)  
Last modified: Fri Apr 13 11:22:58 2001

<http://pico.tu.tokuyama.ac.jp/Public/DataStruct/>

ホームページの紹介

フリーソフトでデータベース構築

教育支援センター第2室 寺西 信

情報電子工学科では、創造演習で使う物品は学生が担当教官に依頼して購入していました。しかし、担当教官が不在の時は依頼できません。そこで、いつでも依頼が出来るようにホームページを立ち上げました。構築にあたっては、Apache(WWWサーバプログラム)、PostgreSQL(データベース)、PHP(スクリプト言語)を使用しました。これらはすべてフリーソフトです。

私のホームページの構成は、①教育支援センター第2室のページ ②IE実験室について ③創造演習のページ ④工事担任者試験についての4つです。作り始めたばかりのページですので工事中が多いかと思えます。今後の予定は、IE工学実験の新実験テーマに関するページの作成、工事担任者試験のページの充実を考えています。

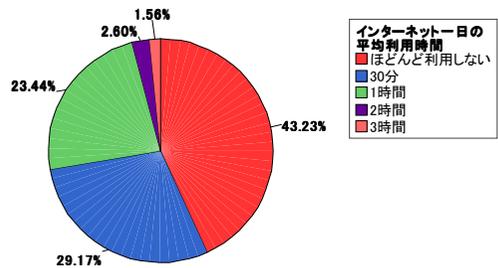


<http://newieexp.tu.tokuyama.ac.jp/> (学内用)

インターネット利用に関する  
学生アンケート結果

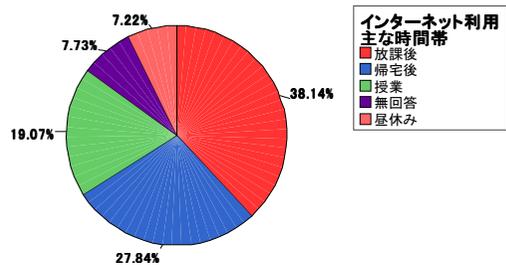
夏休みに入る直前、学生の皆さんからアンケートを取りました。各学年で1クラスずつ、合計5クラス、総人数 194 名を対象に実施しました。

インターネットを一日平均何時間利用しているか？



「ほとんど利用しない」が43%です。その理由は、「必要とは思わない」と「時間が無い」にほぼ二分されていました。前者の理由は後で考えることとして、後者の理由には、例えば、部活動で放課後には利用する時間が無い等が考えられます。

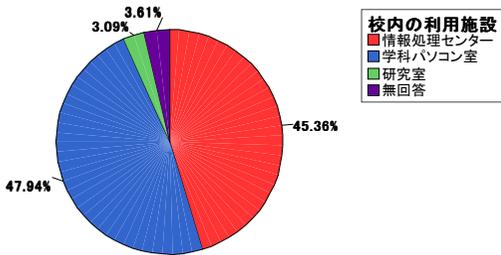
主な利用時間帯は？



時間に余裕の持てる放課後が一番多く 38%です。

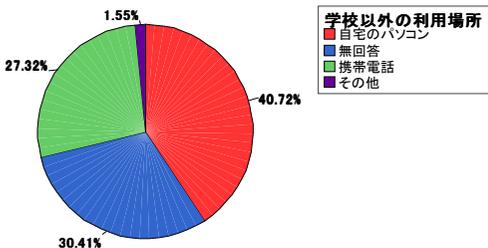
また、帰宅後が28%であることから、家庭でもかなりインターネットを利用しているようです。この二つの回答をした人は合わせて66%で、比較的時間のゆとりは持っている人と考えることができます。

校内での利用場所は何処？



情報処理センターと各学科のパソコン室で二分されています。

学校以外での利用場所は何処？

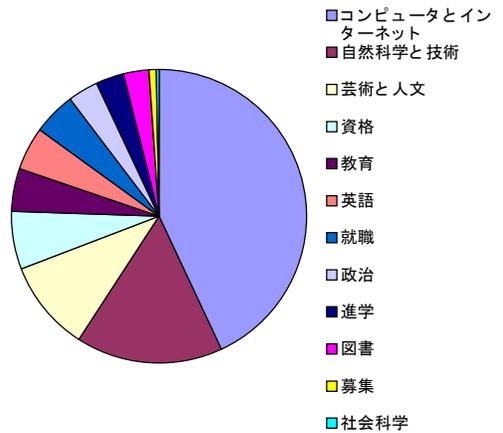


自宅でインターネットを利用できる人が41%あり、この数は今後更に増えると思われます。

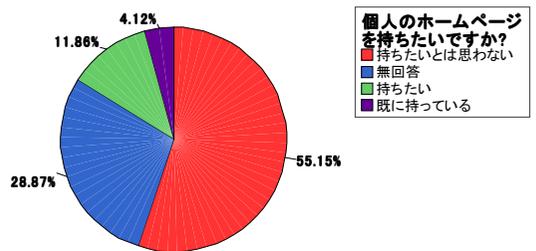
先程ほとんど利用しない理由としてあがった「必要とは思わない」について考えようと思います。「どの分野のWebを見ていますか？」という問いに対する回答の結果を見てみましょう。次の図は、学校でよく見るWebページとして回答された項目をカテゴ

リ毎に集計したものです。回答してくれた人は57%に過ぎず、その中でも自然科学や教育のカテゴリの比率はそれぞれ16%と5%と少ないことが分かります。このカテゴリの教育的利用の少なさが、「必要と思わない」の理由の一つになると思われます。

学校でよく見るWebページは？



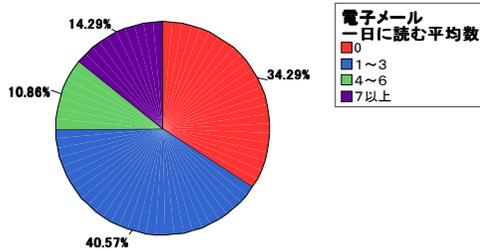
個人のホームページを持ちたいですか？



「持ちたいとは思わない」と「無回答」を合わせると84%にもなります。Webの特色である情報の送り手になることに対してもあまり関心が持たれていないようです。

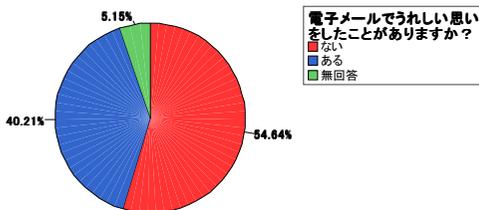
次に、電子メールの利用について結果を示します。

### 一日に読む電子メールの平均数は？



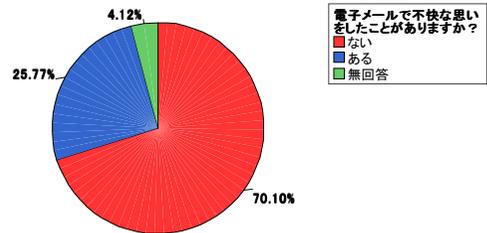
1～3通が一番多く、41%でした。次に、0通が34%と続きます。

### 電子メールを通してうれしい思いをしたことがありますか？



「ない」が55%、「ある」が40%です。「ある」と答えた人の理由に、「旧友から突然メールが届き、連絡を取り合うようになった」、「友人にメールで励まされた」、「採用の通知が来た。」などがあり、友達間のコミュニケーションに大いに利用されている感じが感じられました。

### 電子メールでの不快な思いは？



「ない」が70%、「ある」が26%でした。「ある」と答えた理由には、チェーンメールや悪戯メールなどがあげられました。

### おわりに

学生の皆さんからのアンケート結果を見て、インターネットを更に学習に活かせるように、利用時間や場所等の環境を整え、さらにWebページの教育利用方法を学生へ紹介する必要があると感じました。

Webページを検索して情報を得ることは、たくさんの情報に触れ、その中から自分なりの答えを見つけていく楽しさがあると思います。また、それがきっかけとなり、自ら本を調べて理解を深めようという気持ちになります。そして、自分の得た答えをWebページで発信することにより、再び知の種が世界へ広がっていきます。こうした自主学習能力をインターネットを通して養えるのではないのでしょうか。また、Webによる教育内容の公開は、教師と学生が一緒に考えるという場を提供するものと思います。

## インターネット利用に関するアンケート調査

高専だより 53 号ではインターネットの有効利用と問題点について特集します。

資料のためアンケートにご協力ください。

(該当する項目に○をつけて下さい)

◎ 全員にお尋ねします。

1) 学年： 【①1 ②2 ③3 ④4 ⑤5】

2) 所属学科： 【①ME ②IE ③CA】

3) 性別： 【①男性 ②女性】

4) インターネットを一日平均何時間利用しますか？

【①ほとんど利用しない ②30分 ③1時間 ④2時間 ⑤3時間 ⑥4時間以上】

5) インターネットを利用する主な時間帯はいつですか？ 【①昼休み ②授業 ③放課後 ④帰宅後】

6) 学校の設備に関して要望があればお書き下さい。( )

7) 利用していない人はその理由をお書き下さい。( )

8) インターネットに関して知りたいことがあればお書き下さい？  
( )

9) 電子メール (e-mail) について

1. 一日平均何通の電子メールを読みますか？ ( 通)

2. 一日平均何通の電子メールを出しますか？ ( 通)

3. 電子メールの目的は？ ( )

4. 電子メールを通してうれしい思いをしたことがありますか？ 【①Yes ② No】

5. あるとすれば、どのようなことですか？  
( )

6. 電子メールを通して不快な思いをしたことがありますか？ 【①Yes ② No】

7. あるとすれば、どのようなことですか？  
( )

10) Web の利用について

1. Web を通して有益な情報を得たことがありますか？ 【①Yes ② No】

2. あれば、どのようなことですか？  
( )

3. Web を通してうれしい思いをしたことがありますか？ 【①Yes ② No】

4. あれば、どのようなことですか？  
( )

5. Web を通して不快な思いをしたことがありますか？ 【①Yes ② No】

6. あれば、どのようなことですか？  
( )

7. どのような Web サイトがあれば良いと思いますか？  
( )

◎ 学校での教育利用に関して質問します。

1 1) 主に学校のどこからインターネットにアクセスしますか？

【①情報処理センタ ②各科パソコン室 ③研究室 ④図書館 ⑤その他】

1 2) 次の表の中で良く見る Web サイトに丸印をつけてください。

コンピュータとインターネット	ハードウェア	パソコン・パーツ・周辺機器・マイコン
	ソフトウェア	一般ビジネスソフト・FreeBSD・Windows・Linux・Mac・プログラミングツール・セキュリティ・グラフィックス・音楽・ゲーム・エンターテインメント・教養・ユーティリティ・CGI・Java・ブラウザ・ホームページ作成
自然科学と技術		数学・物理学・化学・生物学・医学・天文学・地球科学・エネルギー・音響学・科学史・人工生命・エコロジー・農学・認知科学・電子工学・通信工学・機械工学・材料科学・経営工学・環境工学・建築工学・土木工学・都市計画・光学・コンピュータサイエンス・ソフトウェア工学・システム工学・信頼性工学・自動車工学・航空工学・溶接工学・農業工学・人間工学・ロボット・電子工作・無線
英語		学習法・文法・単語・発音・時事英語・技術英語・英会話・翻訳・電子メール
芸術と人文		写真・絵画・建築・デザイン・音楽・文学・歴史
社会科学		経済学・社会学・言語・教育学・心理学・哲学・法学・地理学
政治		情報公開制度・法・政治学・政治・政府資料・行政・国会・外交・軍事
教育		大学・高専・高校・中学校・専門学校
就職		企業求人情報・公務員試験案内
進学		学校案内・募集要項
資格		英検・TOEIC・情報処理技術者・電気通信設備工事担任者・技術士 その他（ ）
募集		アイデアコンテスト・懸賞論文等の募集情報
図書		図書館蔵書検索・出版情報・新聞・英字新聞・広報誌（大学・高専・その他）

1 3) 大変面白く役に立つサイトがあればどのような工夫や内容であるかお書き下さい。

( )

◎ 学校以外で利用している人にお尋ねします。

1 4) どこからインターネットにアクセスしますか？【①自宅のパソコン ②携帯電話 ③その他】

1 5) 次の中で良く見る Web サイトに丸印をつけてください。

【フリーメール 掲示板 チャット eカード メルマガ 個人ホームページ

学術解説（企業・大学・高専・高校・その他） 就職情報 進学情報 製品資料 ショッピング

地域情報 スポーツ 健康 料理 トラベル 音楽 絵画 写真 映画 本 TV&芸能 懸賞 車

鉄道園芸 住まい ゲーム その他（ ）】

1 6) 大変面白く役に立つサイトがあればどのような工夫や内容であったかお書き下さい。

( )

1 7) あなたは、個人のホームページを持ちたいですか？【①Yes ② No ③持っている】

1 8) 個人のホームページをどう活用したいですか（活用していますか）？

( )

—小特集—

# 第36回全国高専体育大会

担当校：徳山高専 協力校：中国地区7高専・神戸市立高専

第36回全国高専体育大会が、8月3日～8月8日まで、徳山高専を担当校、中国地区7高専と神戸市立高専を協力校として行われました。徳山高専は、陸上、バレー、卓球、柔道、サッカー、ハンドボールの担当校として実施され、良好な成績を修められましたので榮譽をたたえ、選手の感想を添えてご報告いたします。

## バレーボール

### 熱球

土木建築工学科 5年 水津陽介

8月7・8日と、先生方また学生の補助員の皆さんお疲れさまでした。バレー部は結局3位止まりで、地元で錦を飾ることは出来ませんでした。バレーボール関係者の皆さん、佐賀先生、かわいい後輩達に、「優勝」という恩返しをしようと思ったのですが、作戦は見事に失敗してしまいました。すみません。バレーボールを通じて、多くの人と出会うことで色々な考え方を教わり、一生付き合える友人ができ、礼儀を学び、最後に大きな大会（しかも地元で）で終わったので、思い残すことはもうありません。皆様お世話になりました。

バレーボール 最高！

## 卓球（団体戦）

情報電子工学科 5年 藤本 宣明、木下 陽平、立山 翔

8月5日で僕らの長い高専での部活動が終わった。最後の高専大会はなんと地元徳山で行われた。OB

の人がたくさん見に来ている中での高専大会になった。まず初日は選手宣誓をつとめた。緊張したけど初めてではなかったので普通に言えた。そして団体戦が始まった。1戦目は東京高専とだった。エースが負けるというハプニングが起こったが結局3-1で勝った。続く神戸高専戦も3-1と危なげなく終わった。そして準決勝は米子高専戦。米子には地区予選で負けているのもありどうしても勝たなかった。しかし団体が僕が勝ったが1番、ダブルスと負けてやばいなーと思ったその時救世主があらわれた。2年生の柴北だった。誰もが目を疑っただろう。普段試合では打たないし打っても散發だったスマッシュが入りまくり（多分1月分は使い切った。：藤本）大差で勝利を収め、結局米子に勝利した。決勝では宇部高専との県内対決となった。1、2、3番とみんないい勝負をしたがいずれも負けて2位だった。個人戦は女子ダブルスが1位、2位をとり、他にも男子シングル、ダブルス、女子シングルスで入賞を果たしました。

僕は出場したチームメートのプレーやスタンドから一生懸命応援してくれた部員全員それぞれに感動させられました。僕はこの事は一生忘れないと思います。今年は1位種目は1つでしたが来年は全て後輩たちが取り替えてくれると信じているので今度はOBとして卓球部を応援していきたいです。

## 卓球（女子ダブルス）

情報電子工学科 3年 宮根明日香

土木建築工学科 3年 岩本尚子

高専に入学して初めての全国高専大会でした。独特の雰囲気、会場にいただけで緊張してしまいました。一回戦は、緊張していたせいか、体も動きにくかったけど、一回試合をすると、その後は、ダブルスの息も合ってきて試合をするのが楽しくて仕方ありませんでした。初めての全国大会で、自分達の納得できる試合が出来たのはとても良い経験だと思います。来年もあるので、今から練習をしっかりと頑張ろうと思います。



卓球女子ダブルス（徳山市総合スポーツセンター）

シーズンを迎えた。やはり春先から調子がよくいい記録を連発した。そして迎えた中国高専大会では、100mで10秒78という大会新で優勝できた。200mでは、その達成感からか2位に終わってしまった。その雪辱をはらすために全国高専では油断せず全力を出し切った。結果は100mと200mで1位を取ることができた。最高にうれしかった。こんな結果が出たのも、これまで苦しい練習をともにがんばってきた後輩たちのおかげだと思う。後輩たちには、私の記録を超えるように、これからはがんばってもらいたい。



リレー競技のメンバー  
（維新百年記念公園陸上競技場）

## 陸上競技

機械電気工学科 5年 藤永征輝

私は高校から陸上をはじめた。1年生のときは、練習も休みがちでありやる気がなかった。しかし、2年になると記録が伸び全国高専大会に行くことができた。それからは、走ることが楽しくなり、練習にまじめに取り組むようになっていった。そして冬季練習もケガなく、最良の状態で5年という最後の



バレー表彰式（徳山市総合スポーツセンター）

## 硬式野球

土木建築工学科 5年 河島拓也

私はこの夏、全国高専大会硬式野球の部で、ワールド負けをしてしまった。私は投手であり、ワールドになる寸前で交代させられた。すごく、むなしかった。自分の無力さを痛感した。今年の2月くらいに腰を痛め最後まで治らず、今も苦しんでいる。その影響は最後の北九州戦の時にはなかった。久しぶりに自分でも気分よく投げられ最高の試合ができると思っていた。が、先ほど述べたとおり結果はワールド負けである。自分の中でベストを尽くしたけど、勝つためには、努力しなければならなかったことが分かった。

私は就職も決まったので、今後の人生を悔いのないように歩んでいきたい。



サッカー競技 (徳山大学総合グラウンド)



ハンドボール競技 (徳山市総合スポーツセンター)



サッカー競技補助員



ハンドボール競技補助員



陸上競技の記録

# 多くの人達が大会を支えました

## 熱気に包まれた卓球会場では…

この全国大会に向けての準備は約3年前から始まりました。大会実行委員会が組織され、全教職員、学生、さらに中国地区のクラブ顧問の先生方にも協力していただくような体制作りがなされました。本校が主管することになっている6種目の競技委員会は十数回開かれました。卓球競技班はこの競技委員会と平行して、競技要項の作成、競技役員・補助員の委嘱、審判員の委嘱、競技会場の設営、競技に必要な物品の選定などの打ち合わせをその都度行い、ようやく大会を迎えることになりました。

今年の夏は例年のない猛暑。しかし大会は期間中スタンドが満席という盛り上がりを見せ、熱気に包まれました。そして、補助員学生10名は、朝早くから会場設営、掲示、接待、受付と事前の打ち合わせどおりスムーズに任務をこなしてくれました。

多くの方々に支えられたこの大会も何とか無事終えることができました。徳山市卓球協会の皆様方、教職員の皆様方、全国各地から応援に駆けつけてくれた35名の卒業生諸君、並びに競技補助員として快く協力してくれた学生諸君に心より感謝致します。

(卓球班 班長 原田幸雄)

卓球の手伝いは会場設営と片付け、試合結果の記録、片付けなどがありましたが、私の主な仕事は会場設営と片付けでした。試合の前後や合間で動くので試合中は仕事がないため試合を観戦していました。選手達の技術のすばらしさには感動させられ、その

気迫や迫力ある戦いに圧倒され、「凄い！」の一言しかありません。

(情報電子工学科3年 片山太二)

## 陸上競技・・・パソコントラブルも難なく解決・・・

陸上競技では、補助員学生20人に主に表彰関係、記録関係、接待関係の任務を行っていただきました。真夏の酷暑の中、てきぱきと仕事をこなしてもらい、本当に助かりました。大会運営はほとんど山口県陸協にお願いしましたが、記録係は、高専教職員と補助員でチームを組みました。プログラム進行に影響しないように出来るだけ早くレースの記録、決勝の番組編成を行い、印刷・掲示する必要がある重要な係です。4台用意したパソコンの1台が動作しないなどのトラブルにもかかわらず、補助員のメンバーがパソコンに強くソフトの扱いも上手だったおかげで非常にスムーズに任務を遂行することができました。陸協役員の皆さんの評判も良かったようです。補助員の皆さんのお陰で、徳山高専も全国で初の総合5位、成績も大会運営も素晴らしいものになりました。本当にありがとう！

また、陸協役員の皆様方始め、大会運営にご協力頂いた皆様方には感謝に絶えません。暑い中本当にありがとうございました。

(陸上部顧問 小田和広)

私は陸上競技の接待や表彰の補助員をしました。8月初めの暑い時期で、仕事は多く、なかなか忙しかったです。しかし、それより選手と間近で接することができ、スタンドから見えていた時とはまるで違う気持ちになったことの方が印象に残っています。補助員をしてその大会を支えている人がたくさんいる

ことに気づき、陰で苦勞している人達がいるからあんなに感動的な大会になったのだと思います。だから今度からは、大会に行ったら、選手だけでなく大会を支えている役員の働きっぷりも見てみたいと思いました！！

(陸上部 情報電子工学科2年 有馬ゆかり)

### バレーボール・・自発的、積極的に運営に協力

徳山高専が主管した全国高専体育大会バレーボール競技は、教職員スタッフ、学生スタッフ、外部の審判員、競技委員、他校の学生の補助員の皆さんが一致協力して頑張ってくださったお陰で大成功に終わることができました。

私は、総務委員長として本校の学生スタッフのまとめ役をさせていただきましたが、徳山高専の学生としての自覚を持ち、自発的に、そして積極的に大会運営に協力してくれたバレー担当の学生スタッフを誇りに思っています。また、彼らに対して感謝の気持ちでいっぱいです。みんな、本当にありがとう。

また、学外の関係者の方々、本校教職員の皆様には心よりお礼申し上げます。

(バレーボール部顧問 国重 徹)

私は、バレー部のみんなが一生懸命練習をしていることを知っていましたし、先生方が一生懸命大会の準備をされていることも知っていました。ですから、学生スタッフは大会をサポートする大事な役割だと思っていたので、その仕事を任せられ、大変嬉しく思いました。私以外のスタッフも、その役割をしっかりと認識し、自分達の仕事をきちんとやり遂げてくれました。そのことは、大会の成功に大きく貢献したと思っています。私は、この大会に参加させて

いただいたことを、本当に感謝しています。

(土木建築工学科5年 福田絢子)

\*福田さんは卒業研究や就職活動で忙しいにもかかわらず、献身的に大会をサポートしてくれました。(国重)

### サッカー・炎天下で長期間に渡る仕事をまっとう

今年の全国高専サッカー選手権大会はサッカー協会の方々、学外の生徒さん、学内の教職員・学生の皆さんの協力を得て、無事終わることができました。

サッカー競技は、16チームによるトーナメント方式で行われるため、他の競技種目に比べ長期4日間



に渡る開催となります。

試合中、熱中症で倒れ、病院に運ばれる選手も出るくらいの炎天下で、特に大変だったのはボールボーイではなかったでしょうか。マルチボール方式(ボールがピッチの外へ出ると、別のボールが速やかに投げ入れられる)が導入され、初日、2日目と一試合に6名ずつのボールボーイをお願いした徳山高専と下松工業高校のサッカー部員の皆さん、お疲れさまでした。また、放送、記録、湯茶サービスなど様々な仕事を責任を持って果たしてくれた学生の皆さん、本当にご苦勞様でした。

全国大会は、毎年この8月の暑い時期に開催され

ているわけですが、これまでの大会でこのような光景は見たことがありません。猛暑の中、大会運営に協力していただいた方々に感謝申し上げます。

(サッカー競技班長 守川和夫)



私が担当した主な仕事は主審、副審の方々に水分と汗を拭くおしぼりを提供することでした。真夏の炎天下でしたから特に水分補給は重要で、時間を見ながら差し出すタイミングをうまく調整しなければなりません。お手伝いとはいえ、責任の重さを感じました。

それでも私にとっては少しも苦に感じられません。仕事の合間のゲーム観戦は面白かったですし、とても仕事のしやすい環境だったからです。関係者の皆様方、大変よくして頂いて本当にありがとうございました。

(情報電子工学科4年 武安美和)

### ハンドボール・全員が我慢強く真剣に最後まで協力

大会前日午後、夏休み中にもかかわらず時間どおり全員が会場に集まってくれたとき、私はホッとしました。正直に言うと、サボる人がいるのではないかと心配していたからです。

校内補助員の仕事は駐車場整理、受け付け、清掃、放送、湯茶サービス、式典補助などで、決して楽しい仕事ばかりではなかったと思います。しかし、2日目午後の後片付けまで全員が我慢強く真剣に仕事をこなしてくれました。私はサボる人がいるのではないかと想像していたことを恥ずかしく思いました。

補助員の皆さん、最後まで頑張ってくれて本当にありがとうございます。この夏の大会を支えたことは、皆さんにとっても誇りとなり、同時に良い思い出になるものと感じています。

なお、本大会の競技運営は山口県ハンドボール協会の役員・審判の方々に全面的なご支援を頂きました。競技補助員は徳山市内の高等学校ハンドボール部の皆様にご協力いただきました。また競技外の大会運営に関しては本校教職員の皆様にお世話になりました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

(ハンドボール班 班長 重村哲至)

私はハンドボール競技のアナウンスを担当しました。初めての徳山での全国大会ということで、今までにない緊張感が高まる中、初日を迎えました。

これまでにアナウンスなど経験したことがなかったので最初は少し緊張しましたが、大会を運営する上で重要なものなのでミスをしないように真剣に取り組みました。試合も一点を争う接戦が続き、会場



は大いに盛り上がっていました。ハーフタイムや試合間にBGMを使用した効果もあったと思います。

2日間特に大きなトラブルもなくとても良い雰囲気の中大会を終えることができたので本当に良かったと思います。

(情報電子工学科4年 清水久美子)

### 柔道・重要な業務を責任を持って遂行

柔道競技は8月4日に行われ、補助員として本校学生から15名、8月2日の準備も含め2日間、設営、運営、撤収に協力いただきました。

柔道競技の全国大会が徳山市で行われるのは昭和61年(1986年)の全国高等学校総合体育大会以来の出来事で、徳山地区柔道協会の全面的な運営協力で行われました。このため補助員は徳山、新南陽、下松、光の高等学校、中学校の述べ150名に依頼し、会場設営や運営にご協力頂きました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

そのため、本校学生は全補助員のわずか1割程度であり、柔道経験者がいないという状況で、事前打ち合わせを1回行っただけでしたが、写真、会場、記録の業務を細かい指示なしに自主的に遂行してくれました。出来如何では大会進行が滞るかもしれない業務でしたが、最後まで責任を持って遂行してくれたことは特筆に価します。また、補助員の分担のなかった学生の応援もあり、大変嬉しく思いました。ありがとうございました。

(柔道班 班長 原 隆)

### 記録班・・・大きなトラブルも無く順調に

情報部は、6日間の大会期間中、本校の第2パソコン室を拠点として、本校開催種目(6種目)の競技結果をウェブページへ反映する作業をしました。作業を担当したのは、学生8名と教職員6名でした。作業は、事前に各競技の組合せ等をパンフレットを参考に作成しておくことからはじまりました。競技当日は、各競技場からFAXで転送されてくる結果を、順次追加することでした。平成11年にも、中国地区大会の協力校として同じようなことを経験をしていたため、大きなトラブルもなく順調に行うことができました。ここで、関係者各位に改めて感謝します。

(記録班 担当 杉村敦彦)

……………補助員の選出について……………

補助員の選出については、4月の合同HRで学生主事より全学生に補助員としての協力をお願いし、6月よりクラブ部員名簿をもとに補助員の選出作業を行ないました。その際、原則として、5年生、寮生、全国大会出場の体育系クラブ部員、文化系クラブで大会当日活動予定のあるクラブ部員、高校野球応援団(団員、ブラスバンド部員)は補助員よりはずすことにしました。6月末に補助員名簿(案)を作成し、6競技のクラブ顧問の先生方に最終的な調整をしていただくと同時に、学生会にも協力を願い、各競技の責任者(連絡係)を学生会役員に担当してもらうことにしました。今年は例年以上の猛暑でしたが、一人一人が自発的に責任を持って自分の任務を遂行してくれたお陰でどの会場でも大会運営が大変スムーズになされたと聞いております。暑い中本当にご苦労さまでした。

(学生主事補 上俊二)

### 第36回全国高等専門学校体育大会の成績

#### 【団体戦】

種目	成績
硬式野球	3位
バレー	3位
卓球	準優勝

#### 【個人戦】

種目	氏名	成績
陸上		
1000m	藤永征輝	優勝
2000m	藤永征輝	優勝
15000m	藤井隆幸	3位
8000m	池部真純	3位
卓球		
男子シングルス	久津摩勇人	3位
男子シングルス	林正和	3位
男子ダブルス	木下陽平 林正和	3位
女子シングルス	松永知子	準優勝
女子ダブルス	宮根明日香 岩本尚子	優勝
女子ダブルス	伊藤久美子 松永知子	準優勝
テニス		
男子ダブルス	貞森慎吾 藤井雅善	準優勝

### 第37回中国地区高等専門学校体育大会の成績

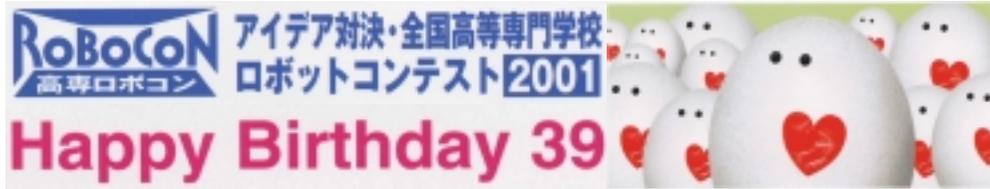
#### 【団体戦】

種目	成績
テニス	第1位
バレー	第1位
卓球	第3位
硬式野球	第1位
サッカー	Bパート 1位

#### 【個人戦】

種目	氏名	成績
陸上		
1000m	藤永征輝	第1位
2000m	藤永征輝	第2位
4000m	岩本直之	第2位
4000m	小池徹	第3位
8000m	弘中裕一郎	第1位

種目	氏名	成績
8000m	岩本聖士	第2位
陸上		
15000m	藤井隆幸	第1位
50000m	藤井隆幸	第1位
50000m	重田輝年	第3位
4X100mR	徳山高専	第2位
4X400mR	徳山高専	第1位
走高跳	津賀洋希	第1位
8000m	池部真純	第1位
8000m	石田さやか	第2位
卓球		
男子シングルス	久津摩勇人	第1位
男子ダブルス	木下陽平 林正和	第3位
女子シングルス	松永知子	第1位
女子シングルス	宮根明日香	第2位
女子シングルス	岩本尚子	第3位
女子シングルス	伊藤久美子	第3位
女子ダブルス	伊藤久美子 松永知子	第1位
女子ダブルス	宮根明日香 岩本尚子	第2位
剣道		
女子	村田江美	第3位
テニス		
男子シングルス	藤井雅善	第1位
男子シングルス	貞森慎吾	第3位
男子ダブルス	貞森慎吾 藤井雅善	第1位
男子ダブルス	中司弘樹 藤井秀徳	第3位
水泳		
100m自由	大形哲也	第2位
100mバタ	長廣大祐	第3位
200m自由	是國翔一	第3位
200m背泳	岩崎享	第3位
200mバタ	長廣大祐	第2位
400m自由	是國翔一	第2位
4000mR	徳山高専	第2位
8000mR	徳山高専	第2位



アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト 2001 中国地区大会が、10月21日に徳山市総合スポーツセンターで開催されました。今年のテーマは「Happy Birthday 39」。高専が誕生してから今年で39年目になるそうです。その感謝の意を込めて誕生ケーキにろうそくを立てようというものです。従来どおりの1対1の対戦で、自分の「ショートケーキゾーン」と「ケーキゾーン」に立てたろうそくの数が勝敗が決まります。ろうそくは横にして置かれた21本と、ケーキゾーンの外に立てられた6本です。競技時間は2分で、いかに工夫して多くろうそくを立てるかが見物です。少なくとも1本は自陣のショートケーキゾーンに立てなければなりません。また、最低1本のろうそくには炎とみなされる造形を置かなければなりません。

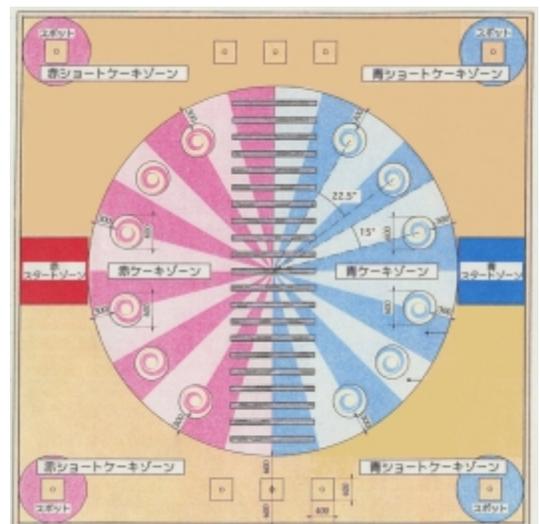
前日のテストランでは、ろうそくを縦に積み上げる方式や、子機が分担して複数のろうそくを同時に立てる方式などがありました。どれが必勝法なのか考えてみるのも観戦の楽しみの一つでしょう。

午後1時、競技が開催されました。大会当日は、あいにくの雨模様でしたが、熱心な市民が多数見学され、アイデアをこらして制作されたロボットの戦いに声援を送っていました。高さ5メートルの大型マシンには、目を見張ってしまいました。ユニークなマシンには、会場から「かわいい」との黄色い声がありました。漁師なみにろうそくを捕獲するマシンには、ブーイングの声も聞こえてきました。

徳山高専からはAチーム「けえき回腹中(笑)」と

Bチーム「サイドバード」が参戦しました。Aチームは横のままのろうそくを複数取り込み、マシン内部で回転して立てる作戦でした。Bチームは横に置かれたろうそく先をつかんで一本ずつ縦に引き上げながら積み上げる作戦でした。対戦の結果はトーナメント表のとおりです。この模様はNHK総合テレビにて、平成13年11月23日(金)13:05~14:04の時間で放映されます。

今回は地元での開催ということで、競技進行の手伝いや応援のために、多くの学生や教職員、そして卒業生や退官された先生が会場に集い、競技を見守りながら親交をあたためました。



誕生ケーキにみたてた競技フィールド





バスに揺られて行き着いた場所は山の中。山口徳地少年自然の家で私達新一年生 134 名の新入生合宿研修が始まりました。

出会って間もない人達と2日間うまく過ごせるだろうか。そういう不安を抱えた緊張した空気—自分はもちろん周りの人も緊張しているのが伝わってきました。でもそれ以上に期待もありました。

自己紹介、オリエンテーリング、校歌の練習、レクリエーション、…時間は刻々と過ぎていきます。新しい友達を作れないままに。きっかけがなかったわけではないのですが、ただなんとなく同じ人とばかり一緒に居ました。お互いが不安定な関係の中で自分達の殻に閉じこもっているほうが楽だったからか

もしれません。でもみんな周りの人達に対してすごく気を遣ってくれていて、それが和やかな雰囲気を作り出していたように思います。実際合宿で知り合った殆どの人が好印象でした。初めて接する人だからこそできる気遣いだったのかもしれませんが。

二日目になると、班の人と話せるようになりました。小雨の中行われた野外炊飯、ご飯は焦げ、カレーの中にはすすがはいっていたけれどおいしかった。「自分達で作ったご飯を皆で食べる」という行為は、なんだか特別な力を持っているようで、この合宿で初めて連帯感を感じることができ、「楽しい」と思えました。その後の作文発表では、いろいろな人の夢を聞くことができ、刺激されたと同時にそれぞれの





左から2番目が幾度さん

夢を叶えるために一緒に頑張っていきたいと思いました。私が合宿に期待していたことはまさしくこれでした。新しい友達を作ることもそうでしたが、それ以上に仲間であることを感じたかった。不安だらけの毎日で、早くも高専に来たことを後悔し始めていた私にとって、すごく嬉しいことでした。

その合宿から数ヶ月たち、改めてあの合宿を通して私達が得たものは何だろうと考えてみます。今、休み時間は友達どうしておしゃべりをしたりして、それぞれが居場所を見つけ、安定しています。クラスの雰囲気も悪くありません。ただ、それはあの合宿がきっかけだったかどうか人それぞれだと思います。私自身は合宿よりも普段の学校生活のほうが友達作りのきっかけは多かったと言えます。学校にも慣れ、友達も増えてきて、「知り合った頃」を思い出すと多少照れくさい気もします。でも、あの頃私達



はもっと相手の気持を考え、周りの人を気遣っていました。よく知らない者同士ゆえの気遣いだったのかもしれませんが、相手や周りに対する心配り、このことはどんなに親しくなっても忘れてはならない大切なことだと思います。

このように自分を振り返ったとき、「そういえば合宿で…」と何かを思い出すことができるなら、合宿で得たものは大きいといえるのではないのでしょうか。



## 情報電子工学科3年合宿研修

### 萩 少年自然の家にて

情報電子工学科3年 手嶋俊介

5月の24、25日、僕たちIEは萩へ合宿に行った。初日は朝から雨が降っていて、あまり気がのらなかった。萩市内へ入っても、本当に観光地かと思うぐらい何も無い。これならまだ徳山の方が都会だと思いき、これからの2日間が少し不安になった。青年の家に着いた後の自由行動では、どこに行くか全く計画を立てていなかったのだから、とりあえずバスに乗った。バスに乗っても、これといって目立つような建物はなく、あまり若者向けの街ではないなと思った。それでも、夜にやったバスケは本気でやって楽しかったし、今まであまり話さなかったような人とも話したりして、とても意味のある合宿になったと思う。2日目の萩焼きも、班の人と一緒に作ったのでうまく出来なくても楽しくやれた。これから2年以上このクラスでやっていくことになるけど、この合宿での研修は皆の親睦をかなり深めることが出来たと思う。今後IEのみんなと協力して何かをすることも多いと思うので、今回の研修で強くなった絆を生かして頑張りたいと思う。

情報電子工学科3年 片山太二

萩に着いて一番最初に感じたことは、山陽とは雰囲気が違うということだった。田舎ということもあるだろうが、煙突からもくもくと煙を出しているような工場はなかったし、建物が集まり過ぎているという様子もなかった。何より空気がおいしかった。

次に感じたことは、友達と話をしたり、遊んだりする時間がかかなりあったということだった。小学校や中学校のようにスケジュールが過密というわけでもなかったのだから、ある程度、自分達で考えて行動す

ることが出来た。

唯一、心残りだったのは萩焼きである。なかなか上手く出来ないと、焦れば焦るほど粘土がボロボロと崩れていって大変だった。手元に戻って来るまでに、割れていなければと心配である。今回の萩研修は、楽しいものだった。



# 学校に <sup>なつみ</sup> 藍 が来た日

美術部部长 土木建築工学科4年 深江 忍

2001年7月7日、七夕の日に彼女は大きなポリバケツに入れられて我が徳山高専美術部&伝統文化に親しむ同好会にやって来た。彼女はとても可愛らしくフルーティーな香りを漂わせる深い藍色をした液体で、1日に1度世話をしてあげないと死んでしまう。(下写真参照)そして、pHが10.5を下回ると雑菌が大繁殖し、気温が10℃を切ると不機嫌になり、5℃になると死んでしまうというなんとも手のかかるお嬢さんだ。

そう、もうお分かりであろう。彼女の(性別は不明だが)名前は「なつみ」ちゃん、(以下「なつみ」) 藍染めの藍なのである。



しかし、何故に藍が学校に来たのだろうか? 全ての始まりは忘れもしない長廣先生の、あの「学校で藍染めがやりたいね。」という一言だった。今までは藍染めの先生(鮎村秀子先生)のアトリエへ出かけて行って、年に3、4回藍染めをさせていただいていたのだがついに学校にまで……。その後、美術部&伝統文化に親しむ同好会内での数度に渡るミーティングの結果、なつみは学校に運びこまれることとあいなった。世話係はローテーションを組んだ。生きている藍のお世話に休みはない。土日もちろん誰かが来てやらなければならない。大丈夫だろうか…

さて、<sup>なつみ</sup>藍がやって来て早速、部員と先生方でいろいろなものを染めてみた。藍染めは意外に奥が

深く、染め方によって布や紙にグラデーションやうろこ雲などのさまざまな模様や文字・絵などの作品を創り出せる上、衣服のリサイクルにも役立つ。その後は当番の日にみんな何か生地を持ってきて染めていたようだ。それにしても心配していたお世話係の当番(pHを計って異常がなければかき混ぜて藍の花をぽっかり浮かべておく。異常があれば先生に連絡)、みんなよくやってくれた。夏休みであったにもかかわらず誰一人自分の当番を欠かすことなく責任を全うしてくれたのだ。これも<sup>なつみ</sup>藍の魅力だろうか? 9月になってからはまた別のメンバーも加わって交代でお世話をしている。できた作品は銘々が持ち帰っているのですがどのようものができたかは各人自分の作品しかわからないが、11月、高専祭のアート喫茶(in 談話室)に持ち寄って展示予定なので楽しみに。

こんな魅力たっぷりの当初の<sup>なつみ</sup>藍は大層元気で実によく染まったが、藍の寿命は約3ヶ月。夏休みを終え、9月にはもうおばあちゃん。染める力が激減してしまった。今はもう薄い色にししか染まらないが、藍は最期にとっても薄く青い、しかし色落ちのしない「瓶のぞき」という色を出すそうだ。そして天寿をまっとうすると、大地(畑)にまかれ植物を活性化させるという。不思議なバイオの世界、ジャパンプルーに染まった今年の夏休みだった。

(9月吉日記)

\*「なつみ」は9月末で華麗な一生を終え、学校の花壇に撒かれました。次は美しい花に生まれ変わることでしょう。

# 英検2級に合格して

## ～私の勉強法～

- ・本は自分に合ったものを
- ・単語をしっかり覚える
- ・友達と会話の練習を

機械電気工学科1年 幾度 明菜



まず、本を選ぶときに大切なのは自分に合ったものを選ぶことだと思います。私の場合は大問別に学習できるものを終えた後、本番形式の問題を解きました。2冊以上購入する場合は違う出版社のものにしてみるのでもいいかもしれません。両方のテキストに出てきたものは、それだけ出題頻度が高いという目安になります。

私にとって最大の難関は単語を覚えることでした。毎日電車の中で単語集を何回も繰り返して読みました。半分寝ながら読んだり、あまり本気ではなかったのですが、試験の一ヶ月前ごろから机に向かって声を出しながら本気で覚えるとき、「この単語見たことがある」と思っただけで覚えられそうな気がしてきました。それに、覚えてないと何回も辞書を引かなくてはならないのが面倒くさくて「これは今日中に覚える」と期限を決めると、結構覚えられました。

リスニングは聞くのに慣れることも大切ですが、瞬時に理解できる単語がどれだけあるかということも重要です。時には覚えている単語を早く思い出す練習をしたほうがいいかもしれません。

多くの人が二次試験に不安を感じていると思いますが、こちらは運と度胸です。問題集に入っているCDだと、まだ答えているのに次の質問が始まるという

こともよくありますが、実際には質問はもっとゆっくりしてくれます。ですから友達に頼んで試験管の役をしてもらうのがいいかもしれません。友達だと間違えても恥ずかしくないのです、とにかく「伝えよう」という気持ちを持てます。そしてできたらその後あまり親しくない人とも練習してください。緊張感が生まれ、より本番の試験に近くなります。

合格通知をもらったときは本当に嬉しくて、「今まで頑張ってきてよかった!」と思いました。人によっていろいろなやり方があると思いますが、一番大切なことは毎日コツコツ勉強することだと思います。英検の試験は自分に自信がつくと思うので、ぜひ受けてみてください。

今年度第1回検定試験で2級に合格した幾度さんは1年生ですが、徳山高専創立以来1年生で2級を取ったのは彼女が初めてです。1年生で取れるのだから私も挑戦しようという人も出てきています。今回の試験では2級を2名が受験しましたが合格は2名でした。準2級を受験したのは30名で、合格者は21名でした。準2級については現在合格者が約120名、全校生徒の5分の1が合格しています。準2級は就職の際多少は有利ですが、優遇されるのは2級以上です。卒業までに2級以上を取ることを目標に頑張ってください。なお実用英検が無くなるのではないかという風評がありますが、これは文部科学省の認定が無くなるということ、つまり他の英語検定試験と自由競争になるということで、実用英検の価値はなくなると思います。

(一般科目 桂 哲男)

## ソフトウェア開発技術者に合格して

情報電子工学科4年 岸 秀太



ソフトウェア開発技術者試験のための勉強法を載せたいと依頼を受けたのですが、実際、私がここに載せるほどの事はしていません。ですが、何の知識もなく受かるはずもないので、知識が身についた事に関して、振り返ってみました。

まずは、試験に関する知識の大部分を授業から得た気がします。実際、専門科目の内容が試験の内容と同じことが多かったですし、それ以外に自分が勉強した記憶がほとんどないからです。ただ単に授業を受けるのではなく、授業を自分で考えながら受けることによって、授業の主旨や何をしているのかが分かりやすいですし、分からない事があっても、どこが分からないのか発見しやすいので質問をすることも出来ます。これが、総合的な自分の知識も高めますし、専門科目ならなおさら、種々の試験の勉強にもなるので時間的な効率が良くなると思います。それに やったことを後悔することはなく、ただ、やらなかったことを後悔するだけだと思います。

参考書を勉強するのは、試験のちょっと前からやるだけで十分です。ただし、時間的にみて、授業の内容は一通り読むだけです。授業を覚えていることが前提です。この点で、授業を真面目に受けていて良かったと思います。

さらに、会場で時間があれば、私は理解した気がするところだけを復習します。これは、分かるところを確実にしておきたいですし、分からないところ

を直前に勉強しても分かりづらくなるだけだと思います。言い換えれば、きっぱりと捨てることも大切ということです。その代償に、捨てなかったところは完璧にしておかなくてはなりません。

そして、これは私の勝手な思い込みですが、試験前は早く寝て、当日は早く起きる。余裕をもって会場に行く。試験直前は何も考えず、リラックスすることで、試験になるとよく頭がはたらく気がします。それに試験前日に徹夜で勉強しても簡単に覚えられない 覚える気にならない と思います。それに、追いつめられた気がして、頭に入った気がしても出てこないということになると思います。

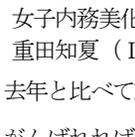
最後に、どの学科でも専門的な試験では、専門科目が全く関係していないことはないでしょうから、日頃から試験勉強も兼ねて授業を受けることが大切だと思います。そのためにも、興味を持つてみることも重要だと思います。最初から投げている知識になるわけではないですし、時間の浪費にしかありません。時間をいかに効率よく使うかが勉強（記憶）の効率といっても過言ではないと思います。なにより、時間の規制された学校で勉強しておけば、家で試験勉強をする時間が少なくなりますから、遊ぶ時間（自由な時間）が増えるのが最大のメリットでしょう。

## DM REVOLUTION



寮生会長 藤村 賢治 (IE4)

今年の寮生会活動の目標は、「DM (DOMINATORY) REVOLUTION」すなわち、寮の改革である。で、改革はどうかというと、寮の中を注意して見ると少し変わっている。高学年風呂の座るいすや、玄関のホワイトボード裏の中庭(ロン!)など小さいところだが変わっている。まあ、あと4ヶ月REVOLUTIONやってみよ!

寮生会副会長  
森本 道人 (ME3)  
いちおう寮NO2です寮生会副会長  
松浦 智子 (CA4)  
がんばります内務部長  
山本 展久 (CA4)  
仕事を忘れずに女子内務美化部長  
重田知夏 (IE3)  
去年と比べて頼りないが...  
がんばれば... (苦笑)美化厚生部長  
森貴祥 (CA4)  
綺麗にします体育部長  
茨木で一す 田隈博之 (ME3)  
つかれた盗難防止会計部長  
角永 敏章 (CA4)  
ガンバります文化広報部長  
田中 憲吾 (CA3)  
田中憲吾です。文化広報部長  
河口 実加 (IE3)  
読んで楽しい文集を  
作りたいです企画部長  
渋谷 誠司 (ME3)  
がんばります“◎”企画部長  
伊藤 久美子 (ME3)  
もちつきしたい“♪”ね  
あすか〜留学生代表  
ヘルワディ (ME5)  
いちおうがんばる選挙管理委員長  
南部 弘樹 (ME3)  
よかったよー今ま  
でで一番よかったよ指導寮生長  
植木 重範 (ME4)  
がんばります、書記  
大石 明日香 (ME3)  
もちつきしたいね、くみこ〜

## 新入寮生歓迎マッチ

4月21日(土)予定通り歓迎マッチは開催された。しかし前日の予想通り天気は雨で、男子寮生のソフトは中止となり、バレーをすることになった。皆、精一杯汗を流し、無事スポーツを終え、待ちに待った昼食がやってきた。外での焼肉は雨のため中止となり、急きょ食堂の回りにテントを張ったりして行くことになった。多少、焼肉に文句をつける者もいたが、とてもおいしく又楽しく食事を終えて歓迎マッチは終了した。

## 太華山登山

5月12日(土)寮の毎年の恒例行事である太華山登山のため、新入寮生と5年生たちは、午前4時に起床し寮を出発した。役員であった私は朝食準備のため、他の役員や先生と一足先にタクシーで登った。最後の数十mは車では登れないため、私たちは荷物を運ぶのに何往復かするはめになった。この荷物運びはほんと大変だったが、他は楽しくやれることができた。次に登るのは5年生になった時だが、その時には、1年の時のようにただひたすら登るのではなく、もっと登山を楽しみたい。

## 卒業生だより

「**私は何のために心配するのを止めて、  
レースを愛するようになったか**」

機械電気工学科 ？期卒業

坂井 貞夫（銀色バイク代表）



「はい、折れてます。」外科医さんの、レントゲン写真を前にして「折れてますか？」という私の一縷の希望も断つような「見れば分かる」と言わんばかりの一言で、私の今年の公式戦は終わりました。これも左手で書いています。ロードレース選手権最終戦に向けての公式練習日に転倒、右手薬指下部を骨折してしまい、残念ながらレースは2戦連続怪我で欠場という形で2001年のシーズンを終わりました。

やっとやっとの卒業直前に就職も決まらないまま、就職の意味さえ分からない私に「君は何になりたいんだ？」と、問いただす当時の学生主事、村田教授に「レーサーになりたいんです。」と答えた記憶が恥ずかしくも鮮明です。レーサーとは？単にバイクや車で競走するだけだとは思えなくなって久しいですが、いまだ答えを得られないまま現在に至っています。

十年余りのサラリーマン、コンピューター専門学校講師、期間限定の約束で手伝った友人の飲食業、半年に渡る無職、そんな私を導いてくれたのが、十数年来のレース仲間であり、下関出身の徳山在住、ハーレーダビットソンのカスタムビルダーとして、業界では日本で知らぬ者のないところまで登り詰めた、モト・ドリーム代表前田俊洋氏です。なんとし



てもレースを続けたいという、私の漠然とした夢話を市内のファミリーレストランで食事をしながら聞いていた彼は「明日からウチへ来てみたら？」と一言。 当時はごく普通のバイク屋だった彼の店で丁稚が始まりました。レースは地元のサーキットで2クラスのチャンピオンを得て、曲がりなりにも国際A級というプロライセンスを取得していた私ですが、自分自身が乗るレーシングマシンならいざしらず、街乗り用の種々雑多なバイク相手では今までのメカに対する自信など全く役に立たず、文字通り一番下っ端の見習いとなったわけです。数日の試用期間の後、前田氏の「使い物になりそうだから」との言葉を貰い、1年8ヶ月間の奉公の末、平成10年の夏に独立開業させて頂きました。それから3年と数カ月、今まであつと言う間でしたが、今からもそうなのでしょう。

「天職」。周囲からも言われますが、自分でもそうだろうと思います。機械が好きでレースが好きで、人の喜ぶ顔が好き。これ以外自分に何が出来るのかと考えても思い浮かびませんが、正直言って今はバイクには興味ありません？レースとバイクは別物です。但しバイクが好きなの人の気持は分かりますので的確なアドバイスは出来ると自負しています。

最後に、なぜ二輪レースをするのか？との問いには「コケるから」と答えます。十数年前に自問した答えは「コケないために」でしたが、少し変化したようです。微妙なニュアンスは伝わりにくいと思いますが、詳細はご来店の上お尋ね下さい。

<脱稿雑記>話題を幾つか考えて（絞込められないだけ？）いましたら、米国同時多発テロなど世界的な大事件があり、あんまり極楽とんぼばかりも言えない雰囲気になってしまひまして、悩みました。ともあれ卒業から現在に至るまでを、徳山高専創立以来の落第生が、如何に社会に適合しつつあるかという事例にして頂ければ幸いです。

## 日本の伝統文化シリーズ

下松市文化協会副会長（元小学校校長）  
茶道裏千家周防支部副幹事長 川本 宗浩



### 雪間の草の春…

二年生の教科書にこんな詩が載っていました。

「ふきのとう」 みずかみかずよ  
そこだけ ゆきが とけてるの  
あったかい いきが かかるのね  
うれしい こえが ひびくのね  
「あっ、これは利休のわびだっ。」と思わず声を出してしまいました。

日本の伝統文化について語るときに出てくる言葉の一つに、「わび」があります。

武野紹鴎はそれを藤原定家の歌で説きました。

見渡せば花も紅葉もなかりけり  
浦のとま屋の秋の夕暮れ

ところが千利休は、藤原家隆の歌で説くのです。

花をのみ待つらむ人に山里の  
雪間の草の春を見せばや

私が茶道で求めたのは紹鴎の説くわびであったのですが、利休のわびに出会って衝撃を受けました。白一色の雪間をかき分けて出てくる萌え出ずる新しい生命こそが「わびだ！」というのですから。

「これがわびか。」中が熱くなり、とてもうれしくなりました。そして、前述の「ふきのとう」という詩で再会したのです。

「わび」が新たな生命を持って感じられてきました。

### 文化とは…

毎年のように小学校の一年生、二年生と交互に教えていたときのことで、人と人が相対するとき、自分が自分と向き合うときに一番基本になるものは何かなあと考えていたことがあります。

まず第一は姿勢だな。次は挨拶。そして三つ目はお辞儀かなあと思いました。

よい姿勢にするには、腰骨を立て、前後・左右の傾斜をなくすようにするとできます。まず「前後」は、鼻先とへそが垂直になるように気をつけ、「左右」は両耳と水平にした両肩が直角になるようにするのです。下腹に力を入れ、静かに呼吸する。

姿勢はその時の気持を端的に表します。日ごろの生活でも、落ち込んだときなどに、気を取り直して「よし頑張ろう」と背筋を伸ばすと元気が出てくるでしょう。端正な姿は人の気持も爽やかにし、集中力を高め、長時間の作業を正確にし、ミスを少なくする。楽な姿勢より疲労の蓄積も少ないようです。勿論、気分転換やリラックスも必要ですが。

挨拶は「心を開いて相手に近づく」というのだそうですが、笑顔で明るく挨拶をされるとほんとに気持がいい。元気ももらえる。ある時、校門で交通誘導をしていると元気のいい子が「先生ッ、おはよう」と手を上げて駆け込んできました。

「おお〇〇君、おはよう。今日も元気に来たね。」と挨拶を交わして気がついた。

（あ、この子、今、私に元気をくれた）

そう思いました。声を出すと周りも元気になる。お辞儀で大切なのはなんといっても「目」。

「目は口ほどにものをいい」というでしょう。それなのに「型(か)」にこだわると相手が見えなくなる。

お辞儀には「真・行・草」の三つがあります。「真」は一番丁寧なお辞儀、「草」は一番簡単な会釈程度のお辞儀、そして「行」はその中間だという分け方を

するのですが、いずれも相手への感謝、謙虚さ、尊敬の念をもってすることを忘れずに。

さて、この章の始めに「文化とは」と書いたのは、司馬遼太郎さんのこんな文章に出会ったからです。「文化とは、基本的には、人と共に暮らすための「礼儀や規範」のことであると思います。」というのです。うーんとうなってしまうました。そうか、姿勢や挨拶やお辞儀などは「礼儀正しさ」などが云々されるときに必ず例にあげられるものだが「姿勢・挨拶・お辞儀は文化の基本的なもの」なのか。思わず背筋がぐんと伸びてきました。

### 空 真味 身(くう しんみ しん)

友達とオチャしますね。それぞれが好きなのを注文する。熱いコーヒーが先に出てきたとします。すると誰かが「さめるといけないからどうぞおあがり」とすすめますね。「じゃあ折角だからお先に」と断っていただきます。しかし、もしこれがお茶席だったらそうもいかない(とってしまうでしょう)。出てきたお茶をどうして飲もうかと戸惑ってしまう。どうぞご安心を。ふだん友達とオチャするときの要領でいただければよいのです。「お先に」と断って、感謝してゆっくり味わっていただく。ノドゴシではなく、コーヒーを飲むように。つまり、香りも一緒に、一口一口味わっていただくのです。その時、こんな呪文を唱えてみてはいかが？

一口目は空(クー加減を見る) 二口目は真味(シバ一味わう)そして三口目は身(シ一身につける)

さあ、一口目を、まず香りをかぎながら、口をすぼめてそっと少しすすってみましょう。次に二口目は、ゆっくり味わいながらいただく。そして三口目からは、心をこめて点てた人に感謝しながらいただく。途中でお菓子をいただいてもよいのです。

考えてみると、私達がお茶を一服いただくことの中にも、お互いのところを通わすものがあるみたい。日本の伝統文化の一つである茶道は、こうして今もあなたのまわりで行われているのです。

### 日本の伝統文化としての茶道

茶の湯は、遣唐使や僧侶達によって日本に伝えられました。茶を点ずることは宮中の儀式として取り入れられ、現在正倉院の御物の中にそれらを見ることが出来ます。

その後、武家や商人へと茶を飲む風習が広がっていき、健康回復の薬としてだけでなく楽しんで飲むようにもなりました。(「闘茶」もその頃です)

茶の湯ははじめ「唐様(カヨウ→中国式)の茶」といわれ、東山文化に代表される「書院式の華やかな茶」として伝わりましたが、その後村田珠光(ムラタジュウカウ)の「草庵の茶→簡素で落ち着いた茶」から武野紹鷗(タノシウウ)の「わび茶→質素な中に心から誠意を持ってもてなす茶」、そして弟子の千利休による「子座敷の茶→静けさの中に新しい活力を秘めた茶」へと受け継がれていきました。

その間に、最高のものと思われていた中国の文化を、「どちらが勝れているか区別がつかない」という意味の「和漢の境をまぎらかす」までに高め、「日本独自の伝統文化」として今に伝えられているのです。その独自性は「日本の自然の美しさ」をバックボーンにしていることだと思います。村田珠光の言う「月も雲間なきはいやにて候」という不完全の美がその一つですし、冒頭に「日本の伝統文化を表す言葉の一つに“わび”がある」と書きましたが、珠光が「わび茶の精神」として説いている

正直で、慎み深くおごらぬさまも日本の伝統文化を如実に表していると思います。

ノーベル文学賞を受賞した川端康成氏はその受賞記念講演のはじめに道元禅師の歌

春は花 夏ほととぎす 秋は月

冬雪さえて 冷しかりけり

を引用され、日本の自然の美しさがいかに日本人の美意識の基になっているかを説きました。

伝統文化としての茶道は今日、こうして私達の心の中に息づいているのです。

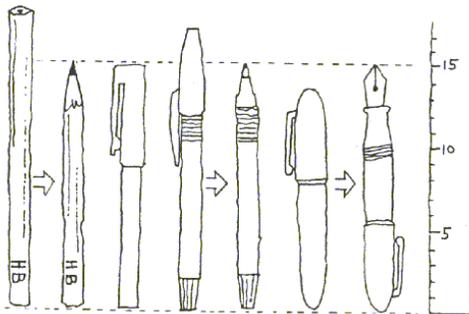
## 暮らしのサイエンス

### 竹とんぼのデザイン

土木建築工学科 木村武馬



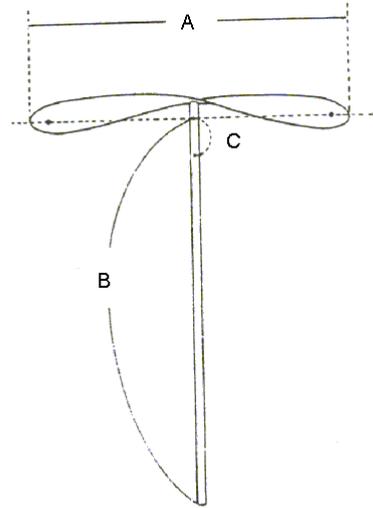
竹とんぼの話をしてします。始めに、その寸法は手の大きさと深い関係があることをお話ししましょう。鉛筆や万年筆などの筆記用具は、面白いことに、すべて **15cm** に統一されているかのようです。万年筆は、キャップをはめて使う時が、丁度 **15cm** になっています。新品の鉛筆は長すぎて使いにくいのです。使い込んで少し短くなったときが、一番使いやすいのです。道具の寸法には意味があります。筆記具のように手で使うものは、手が寸法を決めるわけです。これを身度尺といいます。



筆記用具の寸法は15cmが使いやすい

それでは竹とんぼの寸法はどうでしょうか。大人の手は幅が **10cm** あまりです。両手ではさんで一杯飛ばすためには、上下に多少の余裕が必要です。この余裕を加えると軸の長さは **14cm** くらいになります。この軸長にバランスのよい翼長 (図の **A**) は約 **10cm** くらいです。順序を逆にして身度尺で表す

と、翼長は身長 **6~7%** がよいのです。軸長 (図の **B**) は、翼長の **1.4** 倍くらいがよい寸法です。このように、筆記用具や竹とんぼの寸法は手の寸法から決まります。



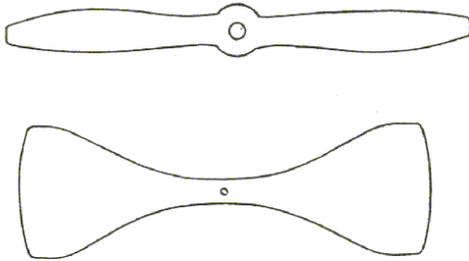
竹とんぼの寸法

Aを10cmとするとBは14cm、重心までの長さCは2cmくらいがよい。

次に重さはどうでしょうか。竹とんぼは空を飛ぶものだから、出来るだけ軽い方がいいのでしょうか。いいえ、軽すぎても飛びません。丁度いい重さは約 **3g** です。身度尺ならぬ身度量 (?) で表すと、**3g** は **60kg** の体重の人の **0.005%** にあたります。kg 数の **60** から **0** をとった数字の半分の **3 (g)** です。**40kg** の子供ならば、**2g** がよいことになります。

つぎに、よい羽根の形を考えてみます。昔ながらのぶっきらぼうな長方形の羽根は悪いデザインです。竹とんぼはプロペラだから、飛行機のプロペラと同じ形にしたら、どうでしょうか。これは半分正解です。竹とんぼのエンジンのことを忘れていたからです。竹とんぼのエンジンは機体自身の重さです。出来るだけ大きい力 (慣性) を得るためには、翼端を重くする必要があります。竹だけで羽根を作るとし

たら、翼端の幅と厚さを大きくしなければいけません。反対に中心部、軸近くは狭く、端になるほど幅広くデザインすると羽根の形は図のようになります。



プロペラのシルエット（縮尺不同）  
上：ラジコン飛行機のプロペラ  
下：性能のよい竹とんぼの例

最後に翼のひねりの角度（ピッチ）はどのくらいがよいでしょうか。理論的にはコンスタントピッチでなくバリエブルピッチと呼ばれる角度が理想的です。これは工作が難しいので、およその角度で作るとよいでしょう。高く飛ばす（高度用）ためには $15^{\circ}$ ～ $20^{\circ}$ 、高さでなく長い時間飛ばす（滞空用）ためには、小さめの $5^{\circ}$ ～ $10^{\circ}$ がよいでしょう。

人間の手で使うものは、コンピュータでも解析しにくいものです。以上は長年の経験で解ったことをまとめました。

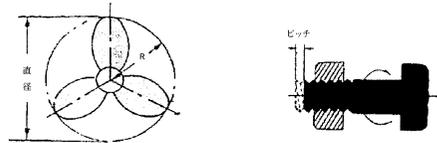


木村先生の竹とんぼの作品です

先生は「国際竹とんぼ協会」より、これまでの功績と研鑽を称えて秋岡芳夫賞を受賞されました。

## プロペラのピッチとは？

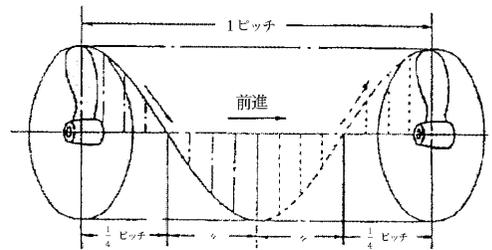
ボルト、ナットの場合にはナットを固定しボルトを1回転させたとき、ボルトの進んだ距離がピッチです。



プロペラの直径

ボルトナットピッチ

プロペラは空中で回転するものですから、このようにはっきりとはわかりません。しかし、もしプロペラが気体中で回転する代わりに、固体中で回転したと想像したとき、1回転する毎に進むと考えられる距離をやはり、ピッチと名付けるのです。



プロペラのピッチ

そしてプロペラのピッチの様式には、コンスタントピッチと、多様ピッチ（バリエブルピッチ）とがあります。コンスタントピッチとは根元から翼端までピッチが一定です。また、多様ピッチとは半径によってピッチの値の異なるものことであって、根元のところ、翼の中央、翼端とそれぞれ少しずつ違ったピッチになっているものです。多様ピッチを更に分類すると逓増ピッチと逓減ピッチの2種類があります。バリエブルピッチとはこの逓減ピッチをさしています。

## 街角ウォッチング

## フランス旅行記

機械電気工学科 池田 光優

2000年6月20日から6月24日にかけて学会でフランスに行って来ました。この学会はSAEというアメリカの自動車技術会が主催で毎年行われているもので、例年ではアメリカであるのですが、昨年はミレニアムイヤーと言うこともあり、フランスの自動車技術会であるCECと共催で開催されたものでした。

私は、学位（博士）を取ったお祝いのような形で教授から行ってらっしゃいという形で講演させていただきました。今回はその時のお話を少しさせていただきます。（他の旅行の方が面白い話がいっぱいあるのですが、あまり自分の恥をかきたくはないので、この話を読んで興味がある人は聞きに来てください。）

## 1. 飛行機について

今回は私費に近い形（航空運賃は教授がお祝いと言うことで負担していただきました。）での出張ですので、旅費にあまり費用をかけることが出来ませんでした。そこで、関西空港-Charles De Gaulle（シャルルドゴール）空港直行便の中で比較的航空運賃が安い日本航空とAir france（エールフランス）の共同運行便を選びました。それでもパリ往復で148,000円ですから決して安くはなかったです。トランジット（乗り換え）を使うともっと安く行けるのですが、トランジットは時間がかかることと、荷物が目的地までちゃんと運ばれているかどうか（結構荷物が同じ飛行機に乗っていないことがあるらしい）が不安だったので、直行便にしました。

飛行機は関西空港から出発するのですが、神戸に実家があるので、前日の夜（学校の仕事が終わってから）実家に帰り、当日の朝、父に空港に向かう連絡船（K-Jet という）の港に連れて行ってもらいました（思えばこれが父との最後のドライブになりました。）。K-Jetは神戸ポートアイランドから関西航空への直行連絡船で、浮上形の高速船です。ですから少々波が荒くても全くと言っていいほど揺れない快適な乗り物です。これに乗って50分ほどすると、関西空港に着くのですが、そこから英語の旅が始まります。フランスに行くのですが、こういう場所（国際空港）では英語がある程度話せたら十分に通じます。実際このときに私が知っていたフランス語は「ぼんじゅーる」、「しるばぶーれ」（英語の「Good morning and Good afternoon」、「Please」に当たります）しか知りませんでした。しかしその後の、出国審査時、搭乗時、機内での会話は全てが日本語で出来ますので、実際の英語の旅はドゴール空港に入ってからになります。ドゴール空港でも入国審査や最寄りの場所までのシャトルバスのチケット購入などは、英語で通じたので、難なくホテルまで着けました。



## 2. フランスに着いて

フランスに着いてまずしなければならないことは、ホテルのチェックインです。私は学会が行われる会

場のホテルを予約しておいたので、そのホテルのチェックインでも英語で十分事が足りました。関西空港を 10:45 に出発してドゴール空港に 16:05 に到着し、そこから 1 時間くらいのところのホテルがあるので、ホテルについて部屋に入れたのは 17:30 ぐらいでした。その時はまだ日本の感覚だったので、もうすぐ暗くなるだろうと部屋でくつろいでいたのですが、いっこうに日が落ちる気配がありません。パリは緯度が日本より高く、私が行った 6 月は北半球が最も日照時間が長くなる時期なので昼が長いことを忘れていました。そこでホテルから 1 時間くらいのところのパリの凱旋門があるのでそこまで歩いて行って見ることにしました。実際に見るとこういった建造物や後で話す美術品は写真で見るとは全然違い、見るもの全てが感動に満ちあふれていました。



2 日目は、午前中エッフェル塔やコンコルド広場に行きました。先にコンコルド広場に行き、その後エッフェル塔を見に行きました。ここでよせばいいのに、調子に乗って高所恐怖症の私はエッフェル塔に登ってみることにしました。下の入口までは良か

ったのですが、真ん中の展望台で気分が悪くなり、パリの景色をほとんど見ることなくエッフェル塔後にすることになりました（帰りの途中でも気分が悪くなり、自分はこのまま死ぬのかとまで思ってしまいました）。発表を明日に迎えていたので、この日は午後からずっと発表練習でした。今回の旅行の目的は学会での発表だったので、それがうまくいかなくては本末転倒ですから。



### 3. 発表

フランスについて 3 日目、いよいよ発表です。ホテルの部屋から発表会場までは廊下でつながっていますから、廊下で歩いている最中、「何人の人が自分の発表会場にいるんだろう？」などと考えながら、会場にはいるとそこには **Chair person** が一人いるだけでした。部屋を間違えたか？とも思いましたが、**Chair person** に聞くと、ここで合っているとのことなので、少し拍子抜けしました。結局自分の発表の時には、10 人程度しか人がいなくて、自分の下手な英語を大勢の人に聞かれなくて済んでよかったです。発表の後の質疑も何とか応答できたので。発表に関しては及第点が付けられるのではないのでしょうか。発表が終わった瞬間、「さあ、今日はどこへ行こうか？」と自問自答していた当たり、かなり本末転倒していました。しかし、自分のセッションは同じよ

うな研究をしている発表ばかりだったので、かなり勉強になりました。これを今後の研究に役立てればと思っています今日この頃です。



#### 4. 美術館巡り

発表が終わり、午後から美術館巡りをすることにしました（ここで本当の目的は発表じゃないのかって言うつつこみはやめてください。自分の中ではもう終わったことなのです）。パリには様々な美術館があります。もう2~3日滞在できれば、全ての美術館を廻りたいところなのですが、翌日が帰国日なので、半日しか廻ることが出来ません。そこで今回は Musse du Louvre（ルーブル美術館）と Musse d'Orsay（オルセー美術館）の2つに絞ることにしました。それぞれの美術館には、私が見たい絵画が1点ずつあったのですが、まずはルーブル美術館に行くことにしました。自分の1番のお目当ての絵画は、ドラクロアの「民衆を導く自由の女神」だったからです。他にもルーブルにはニケの像やモナリザなど有名どころの美術品がたくさんあります。というより、たくさん有りすぎて目的の絵画のところに行くまで40分かかると言うとてもつまらない美術館でした。しかしそれだけの時間をかけて見に行った本物のドラクロアの絵画は何とも言えない迫力の絵画でした。私はそこで30分以上じっとその絵を見続けてしま

いました。そして、先に書いた美術品などを簡単に見てルーブルを後にしました。2番目のお目当てはドガの「踊り子」です。そのためオルセー美術館への道を走りました。と言ってもルーブルとオルセーはセーヌ川を挟んだ向かい側にあるので、そんなに急がなくても良かったのですが。。オルセー美術館はルーブルほどの広さはなく、どちらかというところんまりとした美術館でした（といっても、日本の美術館よりはかなり広いですが）。しかし、日本人なじみの絵画、彫刻はオルセーの方があるような気がします。ゆっくりと美術鑑賞をしたいならオルセーで過ごすのも良いでしょう。ここでは全ての絵画をさらっと見るのに3時間くらい有ればいいので、いろいろな作品を見ました。ドガやゴッホ、セザンヌ、モネといった、みなさんが聞いたことのある画家の作品が所狭しと並んでいます。それぞれの作品を堪能し、オルセーを後にしました。



#### 5. その他の出来事

私は海外に行くとき、必ずと言っていいほどマクドナルドに行きます。これはその国々によってハンバーガーの味付けが違うことと、その国だけのオリジナル商品があるからです。今回もマクドナルドに行ってみました。パリの市街ではあまり英語が通じず、お店にはいるのも少し躊躇してしまっていたの

ですが、マクドナルドなら大丈夫と勝手な解釈をして、店内に入りました。レジには黒人と白人の男の子がおり、何の気なしに白人の男の子のレジに並びました。自分の番になって注文を行っているとき、後



ろから女性の声で「あの子デュカプリオに似てるよ。」という声が聞こえてきた（日本人観光客だったので日本語でした）のでよく見ると確かに似ていました。しかし、私が「Take out OK?」と訪ねると、その子は「はあ?」と言った顔をして、何もしくなりました。私の発音が悪いのかと思い何度か言い直したのですが、「何言ってるねん、このおっさん」



という顔をするばかり。困っていると隣の黒人の男の子が、「Take out、OK!」と言ってきて、デュカプリオにの男の子にちょっと怒り気味で指示を出

していました。デュカプリオ君は渋々私に商品を渡してくれましたが、それを見た後ろの女の子達は「ちょっと感じわる〜」って言って、さっさと黒人の男の子に注文をしていました。う〜ん、こう言うときには女の子は顔より実を取るものなのね、というのがよく分かりました。



## 6. 最後に

今回の海外遠征では、あまり大きな失敗はなかったもので、少しほっとした感じで日本に帰ってきましたが、細かいところではあのときにはこうしておけば良かったとか、あの場所に行けなかったかなとか、いろいろ後悔するところもあります。そういった気持ちが次の遠征への活力になるわけで、これを読んだ学生のみなさんも、ぜひ卒業旅行なんかで海外に行ってみてはいかがでしょうか。若いうちにいろいろな場所に行き、いろいろな文化に触れると言うことは、これからの人生の中で大いに役立つと思います。最後にこんな駄文を掲載させていただいた広報委員会の先生方に感謝し、私の海外旅行記を終わらせていただきます。

## 留学生・編入生の紹介



**情報電子工学科3年**  
マニーシャ  
出身：スリランカ

私は一年間東京の日本語学校で日本語を勉強して三月の終わり頃に徳山へ来ました。徳山はまわりが海と山ばかりでしたのでごく寂しかったです。でも今は学校の生活には楽しむことが出来るようになりました。日本語で専門の勉強をするのは至難のわざです。でも先生達のおかげでいつも親切に勉強のこととか困ったときにどうしたらいいか考えて下さるので、問題はあまりありません。

徳山にいる間に皆さんと友達になって日本の文化を学びたいと思います。よろしくお願いします。



**土木建築工学科3年**  
ディネーシュ  
出身：スリランカ

東京の日本語学校で、一年間日本語を勉強してから徳山に来ました。初めて徳山に来たとき、こんな山奥に高専があるのかと驚いたけど、先生達やクラスメートが親切に教えてくれるので嬉しいです。それにこんなにたくさん友達が出来るとは思わなかったです。心配していた学校の生活にも早く慣れたいと思います。日本語での勉強は少し大変ですが皆さんのお陰で頑張っています。趣味は美術関係です。

お世話になると思いますが宜しくお願いします。



**機械電気工学科4年**  
和泉 新  
出身：下関中央工業  
高等学校

ここの勉強は難しいので頑張ろうと思います。僕はサッカーが好きで、高校の時はサッカーばかりやっていた。高専大会が一番大きな大会らしいので楽しみにしています。皆さんサッカー部を応援して下さい。



**機械電気工学科4年**  
植木 重範  
出身：都島工業高等学校

高専での授業は大変で、離される一方ですが、これ以上離されないように頑張っていきたいです。高専での生活には、まだ馴染んでいないので、少しずつ馴染んでいこうと思います。

色々とお世話になりますが、宜しくお願いします。



**機械電気工学科4年**

**山本 健詞**

**出身：南陽工業高等学校**

南陽工業高等学校から来ました。この学校に編入学して一番思った事は、勉強のレベルが想像以上に高いということです。専門の勉強は高校の時にやっていたので何とかついていけるだろうと思っていたのですが、やはり、高専のレベルは高く、ついていくのがやっとの状態です。この様な高いレベルの授業をうけている高専の学生はすごいと思います。自分も周りの人に負けないうくらい頑張りたいと思います。



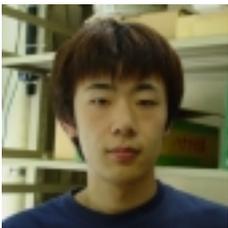
**土木建築工学科4年**

**三分一 淳**

**出身：岩国工業高等学校**

編入学してから早2か月、高専生を見ていて自立心があるなと思いました。前にいた学校では、全て先生が教えてくれていたので……。だから、高専生活で、自分のことは責任持って決定できる様に、自分を変えていきたいし、勉強面でも一刻も早く追いつける様に努力していきたいと思います。

目標は、一日一日を全力投球して頑張っていこうと思うので、宜しくお願いします。



**土木建築工学科4年**

**大西 圭**

**出身：岩国工業高等学校**

高専に編入する前までは、勉強だけではなく他に部活とかも頑張ろうと思っていたけど、入学してみると考えていたよりも勉強が難しくて、今は勉強だけで精一杯です。高校の時に楽をしていたのでこれからは頑張ろうと思います。

2年間ですがよろしくお願いします。



**土木建築工学科4年**

**森 貴祥**

**出身：熊本文徳高等学校**

学校が広く、授業が90分というのはもう慣れたが、高専での勉強は、とても難しくついていくのがたいへんだけど置いて行かれないうように頑張ろうと思いますのでよろしくをお願いします。

## 新 任 教 職 員 紹 介



一般科目 講師  
柏倉 知秀 先生  
(かしわくらともひで)

### ご出身はどちらですか？

北海道出身で、1971年の生まれです。

### 高専に来られる前はどちらに？

高校卒業後、東京の立正大学という私立大学に進学しました。大学卒業後は研究者になることを志して大学院修士課程に進学しましたが、指導教授が急逝され、路頭に迷ってしまいました。他の大学院の授業を受講したり、聴講生になったりして勉強を続けていたのですが、幸いなことに専門が同じ先生が新しい指導教授として母校に着任され、博士課程に

進学することができました。専門は西洋中世史、とくに北ヨーロッパで栄えたハンザの研究をしています。

### 高専に来られての印象は？

工業高専ということで、文系の学校とは異なる雰囲気を持っていますね。

### ご家族は？

2月に結婚し、徳山で妻と二人きりの新婚生活をおくっています。

### ご趣味は何ですか？

読書が好きなのですが、最近は忙しくて専門外の本を読む機会が少なくなりました。

### 今後の抱負をお聞かせください

現在、高等教育機関は大きな変革期に直面していますが、微力ながら徳山高専発展のお役に立てるよう頑張りたいと考えています。



事務部長  
藤田 精一 さん  
(ふじたせいいち)

### ご出身地はどちらですか？

「西郷どん」で知られている鹿児島県の生まれです。

### 高専に来られる前はどちらに？

4県6機関ほど異動してきましたが、直前は熊本県の本校と兄弟校ともいべき八代高専です。

### そこではどんなお仕事をされておりましたか？

現職と同じ事務部長として、校長を補佐しながら学校の管理運営に携わっていました。

### 徳山高専の印象は？

これまで勤務経験のある久留米高専、八代高専と比較して見てしまいますが、学生諸君が元気よく潑刺としていることと、部活動に熱心に取り組んでいる姿勢でしょうか。それと、先生方がかなり汗を流して学生諸君の教育に関わっていることに感心させられています。

総合的にみて、全国54高専のトップグループを走っていると言う評判は当たっていると感じています。

### ご家族は？

北九州市の小倉の実家に妻と私の母がひっそりと留守宅を守り長男、二男、長女は東京でそれぞれ暮らしています。

### ご趣味は何ですか？

趣味というより私の生活の一部といった方がよい位大切に考えているのが「テニス」です。本校でも仲間ができて楽しんでいます。

### 今後の抱負をお聞かせください

永かった公務員生活の最後の任地となる本校で、悔いのない仕事をするために最後まで全力で駆け抜けようと思っています。

事務部の責任者として校長を補佐し、先生方の教育研究支援組織としての事務部が十分機能し得るよう指導してゆきたいと思っています。



会計課長  
中西 治幸 さん  
(なかにしはるゆき)

であり楽しい思い出となりました。

### 徳山高専の印象は？

高専勤務は初めてですが、校舎からの見晴らしも良く、緑に囲まれた素晴らしい環境だと感じました。一方、高専が置かれている状況がこれほど厳しいものだとは思っていませんでしたので、気を引き締めているところです。

### ご家族は？

両親が三重の田舎（三雲町）に、妻が津市に、娘が岐阜に居り、五人家族ですが、ほとんど離散状態です。

### ご趣味は何ですか？

テニスとゴルフ、それに観葉植物と熱帯魚（グッピー）、メダカの飼育が好きなのですが、単身生活では世話ができませんので、津に帰った時に楽しむことにしています。

### 今後の抱負をお聞かせください？

変革の時代にあって徳山高専の改革に、微力ではありますがお役に立てるよう頑張りたいと考えています。それと徳山市を初め、山口県を十分に楽しみたいと思っています。

### ご出身はどちらですか？

伊勢神宮（天照大御神）と鈴鹿サーキット（F-1、8耐）で知られる三重県です。

### 高専に来られる前はどちらに？

三重大学に採用以来、故郷を離れたことがなかったのですが、20世紀最後の年を石川県にあります北陸先端科学技術大学院大学（JAIST）にお世話になっていました。

### そこではどんなお仕事をされていましたか？

三重大学在職中は、ほとんど会計関係の仕事が多かったのですが、JAISTでは研究協力課で国際交流に関する仕事をしていました。初めての転勤と慣れない仕事に戸惑いもありましたが、人事交流で来ている全国の方々と知り合いになれたことは、いい経験



**庶務課専門職員  
(企画調査担当)**  
深町 洋二 さん  
(ふかまちようじ)

#### ご出身はどちらですか？

徳山市夜市の出身です。新南陽市の西側に位置し、国道2号線から約1キロほど北に入ったところです。周りは、山に囲まれ、畑と田圃だけのいわゆる田舎です。

#### こちらに来られる前はどちらに？

山口大学医学部学務課で入学試験関係の仕事を担当していました。医学部では、その他、解剖実習に必要な遺体の受領や、解剖実習後、使用した遺体を火葬するなど貴重な体験をさせていただきました。

#### 徳山高専の印象は？

徳山市の市街地からはなれているので、勉強するには良いところだと思います。また、教育・研究面では地域との連携が進んでおり、今後の発展が期待されると思います。

#### ご家族は？

妻と子ども2人の4人家族ですが、今年4月に山口市から新南陽市に転居しまして、生計は別ですが、妻の両親と同じ敷地内に住んでいます。

#### ご趣味は何ですか？

現在、健康維持のため、昼休みにテニスをしています。腕前は一向に上達しません。

#### 今後の抱負を聞かせてください

早く新しい環境に慣れ、微力ながら徳山高専の発展に寄与できればと思います。



**会計課 出納係主任**  
福岡 雅之 さん  
(ふくおかまさゆき)

#### ご出身はどちらですか？

山口県岩国市出身で、1965年生まれ36才です。

#### こちらに来られる前はどちらに？

山口大学に11年間勤務していました。

#### お仕事の内容は？

工学部及び事務局で会計（経理）系を、教育学部では学務（教務）系に携わりました。

#### 高専の印象は？

今まで周囲は大学生でしたが、高専は高校生から在籍しているので未だに戸惑っています。また、徳山高

専は国立で最後に設置された複合学科による3学の高専ということで、様々な新しい制度を導入されており、とても活力ある学校だと感じています。

#### ご家族は？

山口市に住んでおり、妻と妻の両親及び子供2人の6人家族です。

#### ご趣味は何ですか？

趣味はスポーツで、学生時代はハンドボールをしていました。今は硬式テニスに夢中になっています。何とか市民大会に出場できるくらいになりたいと思っていますのでどなたか教えていただけませんか？

#### 今後の抱負をお聞かせください

高専の勤務は初めてで、ご迷惑をおかけすると思いますが、少しでも徳山高専のお役に立てるように頑張りたいと思います。また、少しでも早くみなさんに名前を覚えていただけるようになりたいと思っていますので併せてよろしくお願いたします。

## 私の研究

土木建築工学科 古田健一



私の研究分野は建築計画です。中でも住宅問題と呼ばれている分野に長年取り組んでいます。住宅問題といっても範囲が広く、住宅の広さや間取りのように住宅そのものの問題を扱う場合と、我が国の住宅政策に関わる問題をさす場合とがあります。私は、どちらかといえば後者の住宅政策と関連のある住宅供給計画立案に有効な「住替え」の分析とその誘導に注目して研究を進めています。

「住替え」とは簡単にいえば引っ越しのことです。勤務先が転勤になったり、結婚や出産で家族の人数に変化があったりした際に住居を変える、つまり住替えることは皆さんにも何度か経験があることでしょう。人の一生ではそう度々行われることではありませんが、統計をとってみると大都市では地方に比べて住替えが頻繁に行われています。

大都市では地価が高いため、住居費の高さや遠距離通勤などの諸問題が以前から取り上げられていました。住居に関するこれらの問題を解決しようとするとき、建替えや増改築、一戸建ての新築や分譲マンションの購入、賃貸住宅への入居などの住居改善が行われます。

これらの住居改善は、地域に存在する住宅市場の

中で行われ、住宅市場の中に求める適切な住宅がない時に住宅問題は発生します。住宅問題の発生は住宅の評価が相対的なために単純には求められません。つまり、全く同じ住宅でも入居する世帯の人数や年収・勤務先によっては満足いく住宅になったり不満のある住宅になったりするのです。常に住宅と世帯の組み合わせで分析を進め、供給される住宅と求められる住宅の組み合わせが、最小限の投資で最大限の効果を生むように計画を練るのです。

以上のような考え方が研究の骨組みです。実際の研究は「住宅統計調査」・「住宅需要実態調査」・「国勢調査」などの政府統計資料の印刷物や集計の元となったアンケートの生データを特別に磁気媒体で入手し、研究室のパソコンで統計解析を行います。つい10年ほど前までは全国集計レベルの大規模なデータを手軽に扱える優秀なパソコンがなかったために国立大学の大型計算機センターへ電話回線をつないで統計処理を行っていました。非常に手間と時間のかかる作業でした。当時と比べると最近のパソコンの性能の良さは夢のようです。

パソコンの性能向上のおかげで得た私の研究の成果は、第1に既往の住替え研究では行われていない居住地の変化と住宅タイプの変化とを同時にみる集計手法を用いたことです。簡単なことの様ですが、生データの状況から集計プログラムを開発する必要があり、また有意な値を出すために地域の区切り方や住宅タイプの種類の分け方に苦労しました。出来上がった統計手法は汎用性があり、住宅の広さの変化や住居費の変化など、住替えの前後で変わる事項を次々に組み込んで多次元での分析が可能となりました。

研究成果の第2は「波及率」という概念を持ち込んで首都圏と近畿圏に適用させたことです。「波及

率」を簡単に説明すると、1戸の住宅がある地域に供給されると、その住宅に1世帯が住替えを行います。するとその世帯がそれまでに住んでいた住宅は空き家となり、そこにまた別の世帯が住替えてきます。このように住替えが連鎖的に起こることをハウジング・チェーンと呼んでいます。厳密にこれを観測することは困難です。新規供給された住宅数と住替えによって発生した中古住宅数に対する住替えを行った世帯数の比を元に、1戸の住宅供給が複数の住替えに波及する率を求めて、どの地域にどのタ

イプの住宅を供給すると効果があるかを実証したのです。

最近では地方都市の住宅問題の解決に、住替えを導入しようと、自らアンケートを配付してデータを集めることも行い、地域に密着したきめ細かな住宅政策立案に貢献しています。また、日本の統計資料では得られない住替えに関するデータを海外に求め、都市と居住に関する世界共通の法則性を見出せないだろうかと思っています。

## TOPICS

### トピックス

#### ●[第8回中国地区コンピュータフェスティバル](#)

1月12～14日、本校や市内の会場に中国地区高専のコンピュータ関連クラブが集まり、自由部門、コンテスト部門、課題部門の作品の展示が行われました。

#### ●[入学式](#)

4月6日、第28回入学式および第7回専攻科入学式が合同で行われました。134名の新入生と編入生6名、留学生2名および専攻科生25名の入学が許可されました。

#### ●[新入生歓迎クラスマッチ](#)

5月8日、新入生歓迎クラスマッチが学生会主催で行われました。総合優勝したクラスは土木建築工学科5年のクラスでした。

#### ●[教官研修会](#)

6月13日、山口大学教育学部附属山口中学校教諭の阿部正二郎先生より、「新学習指導要領の課題」につ

いて講演を頂きました。後半では、土木建築工学科教官の田村先生より、「本校に関する教官の意識について」と題して、アンケート結果を基に報告がありました。

#### ●[第37回中国地区高専体育大会](#)

7月19～21日、津山高専を担当校、呉高専を協力校として開催されました。

#### ●[第36回全国高専体育大会](#)

8月4～8日、徳山高専を担当校、中国地区7高専と神戸市立高専を協力校として開催されました。

#### ●[校内見学会](#)

8月22日、中学生を対象に校内見学会が行われました。今年は合計496名の中学生や保護者、先生方が本校を訪れ、学校の説明や学科による展示を見学されました。

#### ●[公開講座「はじめての電子工作入門（PICを使った電子時計工作）」](#)

7月28日、情報電子工学科主催で行われました。対象者は小学5・6年生と中学生。24名の参加があり

ました。

●[公開講座「わくわく・どきどき 手作りホームページ」](#)

7月30～31日，土木建築工学科主催で行われました。対象者は一般社会人。19名の参加がありました。

●[公開講座「Visual Basic による Windows プログラミング」](#)

8月8～10日，土木建築工学科主催で行われました。対象者は高校生～大人。16名の参加がありました。

●[公開講座「ガリバーが作る小人の家」](#)

8月16～17日，土木建築工学科主催で行われました。対象者は小学5・6年生と中学生。29名の参加がありました。

●[夏休み電子工作教室「文字が浮き上がるサボニウム型風車の製作」](#)

8月19日，テクノ・リフレッシュ教育センター主催で行われました。対象者は小学3～6年生。40名の参加がありました。

●[公開講座「はじめての Word, Excel」](#)

8月25日，情報電子工学科主催で行われました。対象者は一般社会人。19名の参加がありました。

●[夏休みジュニア科学教室](#)

「アンビリーバブル！地震で起きる地盤の液状化」  
「空き缶エンジンを作ろう」

8月29日，夏休みジュニア科学教室実行委員会主催で行われました。対象者は小学5年生～中学生。それぞれの教室に20名と27名の参加がありました。

●[「理工系学生科学技術論文コンクール」](#)

第二回目となる日刊工業新聞社主催の表記コンク

ールにおいて，機械電気工学科3年竹村大輔君が優秀賞を受賞しました。

●[「電子情報通信学会中国支部奨励賞」](#)

本校専攻科2年（情報電子工学専攻）の宮本聖子さん，小田祐司君が受賞しました。

●[「デジクリアワード」](#)（旺文社主催、ソニー協賛）

ホームページの部門で機械電気工学科2年の片山孟、赤松武の両君が佳作に入賞しました。

●[土木学会中国支部研究発表会（6月1日）](#)

若手優秀発表者に今本雅恵さんが選ばれました。円柱周りの流れの三次元性に関する研究（今本雅恵、佐賀孝徳、渡辺勝利）

●[「日本環境化学会松居賞」（日本環境化学会主催）](#)

機械電気工学科2年の浮津弘康君が1年次の創造演習で取り組んだ「ペットボトル再利用法」が奨励賞を受賞しました。

●[「エネルギー利用」工夫作品コンテスト\(10月\)](#)

日本産業技術教育学会主催の表記コンテストで機会電気工学科3年の篠原万歩さんが2年次の創造製作で作った「陸六（6足歩行ロボット）」で学会特別賞に選ばれました。

●[平成13年度高等専門学校教育教員研究集会](#)

8月27・28日，国立高等専門学校協会主催で開催された表記研究集会の教育研究分野において，本校の教官による発表が行われ，以下の論文に会長賞が贈られました。

論文名「創造的ものづくり教育の試み」

○藤本浩 伊藤尚 櫻本逸男 石田浩一

門脇重道 藤満達朗

## 編集後記

「徳山高専だより 53 号」の作成に当たり、原稿を寄せて頂いた方々、アンケートに答えてくれた学生の皆さん、そして企画から原稿の依頼や収集にご尽力下さった広報委員の方々に感謝致します。また、いつも楽しみに読んで下さる方々に感謝申し上げます。今回は「インターネットの教育利用への誘い」と題して特集しました。WWW などのインターネット技術により、教育方法の Tips を蓄積・発展させること、そして情報を交換しながら共に学問への興味を持続させることが可能になると思います。学生による自習ノートのウェブページも多く公開され、ここで紹介できるようになれば良いなと思います。

編集責任者 情報電子工学科 原田徳彦

広報委員会	委員	長	前園	一郎
	一般科	長	廣	恭子
	情報電子工学科		原田	徳彦
	土木建築工学科		桑嶋	啓治
	庶務課	長	紺野	鉄二
	学生課	長	小瀬木	不三雄

## アングル



新入生歓迎クラスマッチ



ロボットコンテスト 2001



4年創造演習 (情報電子工学科)



校内見学会 (機械電気工学科)



校内見学会 (土木建築工学科)



校内見学会 (情報電子工学科)

*No. 53 November 2001*

*Tokuyama College of Technology*